

平成26年度

教育委員会活動の点検・評価報告書

平成26年12月

松阪市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
II	松阪市教育ビジョンに係る「夢ナビゲーション」別の事業評価	
1	事業評価の方法	2
	松阪市教育ビジョン基本構想図	3
2	各事業の達成度、重要度、総合評価、事業年度、決算額一覧表	4～7
3	評価シート	8～45
4	総評	46
III	教育委員会の活動状況	46～47
IV	第三者評価（学識経験者の知見の活用）	
1	第三者評価委員	48
2	第三者評価	48～51
V	おわりに	51

I はじめに

松阪市教育委員会は、平成19年12月に将来の松阪市を担う子どもたちをはじめすべての市民が暮らしやすい、「質の高い教育・文化にふれあうまちづくり」をめざし、今後10年間の松阪市の教育のあるべき姿を構築する「松阪市教育ビジョン」を策定しました。

松阪市教育ビジョンは、「夢を育み 未来を切り拓く松阪の人づくり」を基本理念とし、誰もが心に抱いている「夢」をかなえていくための道案内を「夢ナビゲーション」と名付け、「松阪に育ったことを誇りとし、世界の人々とともに生きる子ども」「思いやりをもち、自分らしさを発揮し、行動できる子ども」「じっくり考え、自ら表現し、学び続けようとする子ども」の3つの子ども像を実現するため、「ドキドキ！ワクワク！学びの芽生えを育む就学前教育の充実」「キッチリ！バッチリ！学びの基礎を育む教育の充実」「市民による、市民のための生涯学習の推進」「個性あふれる文化・芸術の振興」「明るい生活を支えるスポーツライフの実現」「輝け！松阪！新しい教育の創造」の6つの夢ナビゲーションを策定したものであり、教育委員会は、これに基づき、学校教育、家庭教育、社会教育などの教育機能の充実・連携を図るとともに、市民の文化活動やスポーツ活動の機会の充実と質的向上に努めているところです。

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、各教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが規定されました。

そこで、松阪市教育委員会では、法の趣旨に則り、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民の皆様へ説明責任を果たすため、平成19年度の事務事業から「教育委員会活動の点検・評価」（以下、「点検・評価」という。）の対象を「松阪市教育ビジョン」の6つの「夢ナビゲーション」とし、点検・評価を実施し、報告書にまとめ、公表してきました。

今年度点検・評価を行う事業は、前年度との比較を行うため、昨年度点検・評価を実施した事業を中心に、38の事務事業を対象として実施しました。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務〔前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。〕の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅱ 松阪市教育ビジョンに係る「夢ナビゲーション」別の事業評価

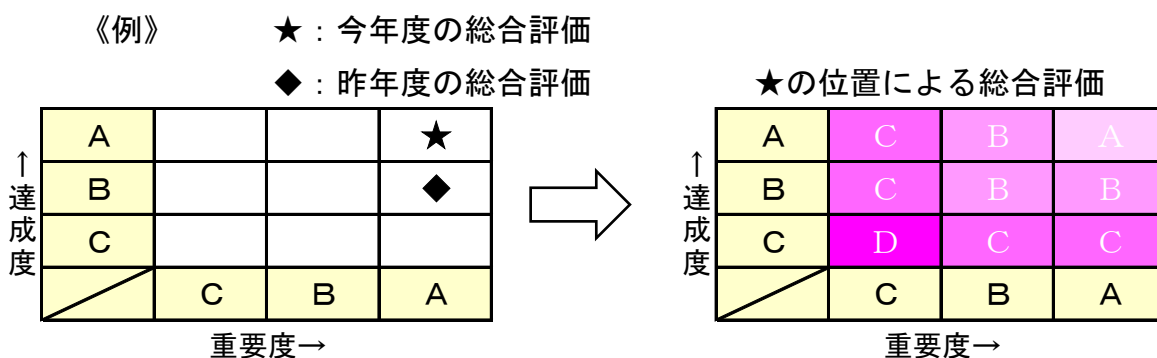
1 事業評価の方法

「夢ナビゲーション」別に各事業の事業目的、事業内容、検討課題、当該年度の取組、改善案・方向性と複数年にわたる事業の場合は進捗度等を点検・評価し、達成度と重要度を表にして表しました。

【達成度】 A：「達成できた」
 B：「概ね達成できた」
 C：「達成できなかった」

【重要度】 A：「非常に重要」
 B：「重要」
 C：「やや重要」

【総合評価】 A：計画どおりに事業を進めることが適当
 B：目的の達成に努め、計画どおりに事業を進めることが適当
 C：事業の進め方に改善が必要
 D：事業規模、内容の見直しが必要



- ※ 事業年度の最終年度が未定の場合については、継続中と表記しています。
 また、1市4町の合併以前に実施されていた事業についての開始年度は平成17年度と表記しています。
- ※ 単年度で完結する事業であっても、その事業が開始された年度がわかっている場合は、その年度を表記しています。

基本構想図

夢ナビゲーション

「将来の自分はこうありたい」という「夢」を抱き、その実現に向けて挑戦し続ける人は輝いて見えます。「夢」の実現という「目的地」に到着するまでの道案内を「夢ナビゲーション」としました。

夢を育み未来を切り拓く松阪の人づくり

- ★松阪に育ったことを誇りとし、世界の人々とともに生きる子ども
- ★思いやりをもち、自分らしさを発揮し、行動できる子ども
- ★じっくり考え、自ら表現し、学び続けようとする子ども

夢ナビポイント

夢を実現する道の途中では、自らを高めようと精一杯努力したり、時には立ち止まり迷ったり悩んだりするなどの分岐点があります。その一つひとつの分岐点において達成すべきめあてや方向性を**夢ナビポイント**としました。

※夢ナビポイントは、市民の皆さんからパブリックコメントとしていただいた教育に期待する提言を参考としました。

5

夢ナビポイント

明るい生活を支える
スポーツライフの
実現

- ① スポーツ・レクリエーション活動を通じた健康づくりの推進
- ② 健康・競技・娯楽としてのスポーツ環境の充実
- ③ 競技スポーツの振興

4

夢ナビポイント

個性あふれる
文化・芸術の振興

- ① 市民文化・芸術活動の創造
- ② 豊かな文化遺産の活用と次世代への継承

1

夢ナビポイント

ドキドキ!ワクワク!
学びの芽生えを育む
就学前教育の充実

- ① “キラキラ”笑顔が輝く楽しい教育内容の創造
- ② 新たな子育て支援の充実
- ③ 子どもの成長を支える研修の推進

2

夢ナビポイント

キッチリ!バッチリ!
学びの基礎を育む
教育の充実

- ① 確かな学力を育む教育の推進
- ② 豊かな心を育てる「心の教育」の推進
- ③ 一人ひとりを大切にする特別支援教育の推進
- ④ ふるさと松阪に学ぶ教育の推進
- ⑤ 保育園・幼稚園から中学校までのつながり方を大切にした教育の推進

6

夢ナビポイント

輝け!松阪!
新しい教育の
創造

- ① 松阪の教育特性を生かした教育改革の推進
- ② 学びを支える教育環境の充実
- ③ 信頼と誇りのもてる学校づくりの推進

3

夢ナビポイント

市民による、
市民のための
生涯学習の推進

- ① 生涯学習活動の推進のためのシステムづくり
- ② 青少年の健やかな育ちのサポート
- ③ 市民が集い、学び合える環境の充実
- ④ 家庭・地域・社会における人権教育の推進

- ⑥ みんなの人権を大切にした教育の推進
- ⑦ 外国人児童生徒教育の推進
- ⑧ 学びの世界が広がる情報教育の推進
- ⑨ 世界とふれあう、世界とつながる国際理解教育の推進
- ⑩ 松阪の豊かな自然に学ぶ環境教育の推進
- ⑪ 本との出会いを大切にする読書教育の推進
- ⑫ 将来の基礎を育むキャリア教育の推進
- ⑬ 健やかな心と体をつくる食教育の推進
- ⑭ つながり合い、高め合う学校スポーツの推進
- ⑮ 豊かな教育を支える教職員研修の推進

2 各事業の達成度、重要度、総合評価、事業年度、決算額一覧表

(1)ドキドキ！ワクワク！学びの芽生えを育む就学前教育の充実

シート 番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合 評価	昨年度 評価	事業年度	決算額 (千円)
1	学校支援課	特色ある学校・園づくり推進事業	A	A	A	A	平成17年度～継続中	16,240
2	子ども支援研究センター	教職員研修事業	A	A	A	B	平成17年度～継続中	1,268
3	子ども支援研究センター	教育相談事業	A	A	A	A	平成17年度～継続中	3,381

(2)キッチリ！バッチリ！学びの基礎を育む教育の充実

シート 番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合 評価	昨年度 評価	事業年度	決算額 (千円)
1	学校支援課	特色ある学校・園づくり推進事業	A	A	A	A	平成17年度～継続中	16,240
2	子ども支援研究センター	教職員研修事業	A	A	A	B	平成17年度～継続中	1,268
3	子ども支援研究センター	教育相談事業	A	A	A	A	平成17年度～継続中	3,381
4	学校支援課	いじめ等対策事業	B	A	B	B	平成21年度～継続中	12,271
5	学校支援課	学びのイノベーション事業	A	A	A	A	平成23年度～平成25年度	1,584
6	学校支援課	特別支援教育推進事業	A	A	A	A	平成17年度～継続中	49,563
7	学校支援課	読書室いきいきプラン事業	C	B	C	A	平成17年度～継続中	15,530
8	子ども支援研究センター	教育支援センター推進事業	B	A	B	B	平成17年度～継続中	2,372
9	育ちサポート室	育ちサポート推進事業	A	A	A	A	平成22年度～継続中	15,671
10	人権まなび課	外国人児童生徒いきいきサポート事業費	A	A	A	A	平成19年度～継続中	11,329
11	人権まなび課	外国人児童生徒受入促進事業	A	A	A	A	平成22年度～継続中	4,718
12	給食管理課	学校給食単独調理場備品等整備事業	A	A	A	A	平成17年度～継続中	8,181
13	給食管理課	学校給食センター備品等整備事業	A	A	A	A	平成17年度～継続中	4,316

(3) 市民による、市民のための生涯学習の推進

シート 番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合 評価	昨年度 評価	事業年度	決算額 (千円)
14	いきがい学習課	こどもまつり大会事業	A	A	A	A	平成17年度 ～ 継続中	1,502
15	いきがい学習課	青少年健全育成事業	A	A	A	A	平成17年度 ～ 継続中	6,246
16	いきがい学習課	新成人のつどい開催事業	A	A	A	A	平成17年度 ～ 継続中	438
17	いきがい学習課	図書館管理運営事業	A	A	A	A	平成17年度 ～ 継続中	122,782
18	いきがい学習課	生涯学習振興事業	A	A	A	A	平成17年度 ～ 継続中	13,100
19	人権まなび課	人権学習推進事業	B	B	B	B	平成19年度 ～ 継続中	5,584

(4) 個性あふれる文化・芸術の振興

シート 番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合 評価	昨年度 評価	事業年度	決算額 (千円)
20	文化課	市美術展覧会開催事業費	A	A	A	B	平成17年度 ～ 継続中	2,297
21	文化課	文化芸術団体共催事業	A	A	A	A	平成24年度 ～ 継続中	80
22	文化課	歴史的建造物公開事業	A	A	A	A	平成17年度 ～ 継続中	18,250
23	文化課	文化財保存整備事業補助金	A	A	A	A	平成17年度 ～ 継続中	866
24	文化課	原田二郎旧宅保存整備活用事業	A	A	A	A	平成22年度 ～ 平成25年度	1,701
25	文化課	松浦武四郎誕生地保存整備活用事業	A	A	A	A	平成19年度 ～ 平成29年度	18,577
26	文化課	指定文化財保存修理事業	A	A	A	新規	平成24年度 ～ 継続中	7,519
27	文化課	長谷川家資料調査事業	A	A	A	新規	平成25年度 ～ 平成29年度	4,177

(5) 明るい生活を支えるスポーツライフの実現

シート 番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合 評価	昨年度 評価	事業年度	決算額 (千円)
28	スポーツ振興課	全国大会等出場派遣支援事業	A	A	A	A	平成17年度 ～ 継続中	3,409
29	スポーツ振興課	スポーツ大会等運営事業	B	A	B	B	平成17年度 ～ 継続中	1,346
30	スポーツ振興課	シティマラソン大会事業	A	A	A	B	平成17年度 ～ 継続中	3,500
31	スポーツ振興課	体育施設整備事業	A	A	A	B	平成17年度 ～ 継続中	9,228
32	スポーツ振興課	スポーツ少年団補助金	A	A	A	A	平成17年度 ～ 継続中	2,970
33	スポーツ振興課	中部台運動公園施設整備事業	A	A	A	A	平成17年度 ～ 継続中	19,346

(6) 輝け！松阪！新しい教育の創造

シート 番号	担当課	事業名	達成度	重要度	総合 評価	昨年度 評価	事業年度	決算額 (千円)
34	学校支援課	コミュニティ・スクール推進事業	A	A	A	A	平成23年度 ～ 平成26年度	300
35	学校支援課	郷土の偉人に学ぶ教育推進事業	A	A	A	B	平成23年度 ～ 継続中	522
36	教育総務課	鎌田中学校校舎改築事業	A	A	A	A	平成23年度 ～ 平成31年度	1,713
37	教育総務課	小野江小学校校舎増築事業	A	A	A	A	平成24年度 ～ 平成25年度	212,085
38	教育総務課	(繰越分) 豊田幼稚園園舎改築事業(暮らしの安心・地域活性化等)	A	A	A	A	平成23年度 ～ 平成25年度	88,584

昨年度点検・評価し、今年度点検・評価しなかった事業

昨年度 シート 番号	担当課	事業名	理由
14	給食管理課	学校給食推進委員会事業	事業が終了したため
24	文化課	長谷川家文書調査事業	事業が終了したため
25	文化課	はにわ館開館10周年記念事業	事業が終了したため
37	教育総務課	小学校防災防犯対策事業	該当年度での実施がなかったため
38	教育総務課	天白小学校校舎増築事業	事業が終了したため
40	教育総務課	中学校防災防犯対策事業	該当年度での実施がなかったため
42	教育総務課	幼稚園防災防犯対策事業	該当年度での実施がなかったため
43	教育総務課	幼稚園空調設備整備事業	該当年度での実施がなかったため

今年度新たに点検・評価した事業

シート 番号	担当課	事業名
26	文化課	指定文化財保存修理事業
27	文化課	長谷川家資料調査事業

評価シート

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実】 【キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実】				番号		1				
						↑ 達成度 ↓ A B C C B A				重要度 →		★・◆
事業名		特色ある学校・園づくり推進事業										
担当課		学校支援課		事業年度		平成17年度～継続中						
予算・決算		平成24年度決算		15,940 千円		平成25年度決算		16,240 千円		平成26年度予算	16,704 千円	
事業目的		各学校・幼稚園において、幼児・児童・生徒や地域の実態に即した特色ある教育・学校づくりを推進するための創意工夫に満ちた特色かつ魅力ある教育活動を支援し、幼児・児童・生徒の生きる力の育成を図る。										
事業内容		学習指導要領、幼稚園教育要領に基づき、松阪市教育ビジョンの実現を図るための特色ある教育活動を全ての学校（園）で展開し、様々な体験活動を通して生きる力を育成する。 ・栽培・生産活動、体験活動、国際理解教育、環境教育等の実施 ・授業力向上のための講師招聘や学力調査の実施と読書活動の充実 ・郷土を愛する心を育てる郷土学習や地域との交流・ボランティア活動等の推進										
複数年にわたる事業	進捗度等	幼児・児童・生徒の実態、地域の実情に応じた教育活動を毎年行うことができ、幼児・児童・生徒の生きる力の育成に大きく寄与している。										
	前年度の改善案方向性	地域の教育資源の活用や個に応じた指導など各学校・園の状況を踏まえた特色ある教育が今後も重要となるため、更なる充実が必要であり、地域との協力体制の強化や、長期的視野に立った計画性、学校のカリキュラム上の関連性をもっと意識した取組をさらに進め、保護者・地域から信頼される学校・園づくりを推進して、松阪市教育ビジョンの実現に向けていく。										
	取組実績	単年度契約（市長と推進委員長）であり、前年度の成果と課題などの評価に基づき今年度の委託契約内容に繋げている。										
検討課題		この事業の目的や取組が地域や保護者に浸透し、地域の環境や特色、また、学校支援ボランティアなど地域の人材をはじめとする教育資源の活用や、個に応じた指導など各学校・園の実態に即した教育活動が推進できるようになってきた。全ての幼稚園・小学校で評価が「目標どおりに達成できた」であり、評価できる取組を進めているが、今ある取組を更に深化・改善を図り「目標以上に達成できた」という評価が表れるように、充実させていく必要がある。										
当該年度の取組		各校・園で地域や児童の実態に即し、子どもたちに付けたい力を明らかにし、創意・工夫に満ちた特色ある活動を行い、学校教育目標の達成と教育ビジョンの実現化を図った。 【幼稚園】地域・交流：読書活動：体験活動：福祉活動：環境学習：情操教育：職員研修等 【小学校】郷土学習：地域交流：環境学習：体験学習：読書活動：教員研修：学力向上等 【中学校】地域交流：職場体験学習：人権学習：福祉学習：平和学習：国際理解等										
改善案・方向性		地域の教育資源の活用や個に応じた指導など各学校・園の状況を踏まえた特色ある教育が今後も重要となるため、更なる充実が必要であり、地域連携型教育の推進体制を強化し、長期的視野に立った計画性、学校のカリキュラム上の関連性をもっと意識した取組をさらに進め、保護者・地域から信頼される学校・園づくりを推進して、松阪市教育ビジョンの実現化を図る。										

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】 【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号		2											
						重要度 → ↑ 達成度 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td></td> <td></td> <td>★</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td></td> <td></td> <td>◆</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>C</td> <td>B</td> <td>A</td> </tr> </table>				A			★	B			◆	C	
A			★																
B			◆																
C																			
	C	B	A																
事業名		教職員研修事業																	
担当課		子ども支援研究センター	事業年度	平成17年度～継続中															
予算・決算		平成24年度決算	1,179 千円	平成25年度決算	1,268 千円	平成26年度予算	1,414 千円												
事業目的		子どもたちの確かな学力の定着を図り、園・学校生活での満足度を高めるため、保育士や教職員の自主的な学びを大切にしたい研修を実施し、実践的指導力の向上を目指す。																	
事業内容		保育士及び幼稚園・小中学校の教職員等を対象に、今日的課題やニーズに沿った内容で、日常の保育教育実践や研究、あるいは保育教育実践上の問題解決に役立つ研修の場を提供する。																	
複数年にわたる事業	進捗度等	平成23年度より、保・幼・小・中の連携を大事にする視点から、前年度までの幼稚園・小中学校教職員対象の「教職員研修事業」と、保育士及び幼稚園・小学校教職員対象の「乳幼児教育研修事業」を統合し、本事業に一本化して実施している。																	
	前年度の改善案方向性	講座アンケート結果等をもとに、ニーズに応じた魅力ある講座構築に努めるとともに、講座案内チラシやセンターだより、ホームページ等で、掲載内容・方法を工夫した研修参加への啓発を行う。																	
	取組実績	講座内容をもとに講座の区分を設定することで、受講する保育士や教職員がより自分のニーズに合った講座選択ができるようにした。																	
検討課題		個人の意識や学校事情等により、講座の受講状況に差が見られる。保育士や教職員が自らの専門性を高めるため、自主的・主体的に学び続けることへの意識向上を図れるよう、さらなる取組が必要である。																	
当該年度の取組		講座の区分を「教科・領域指導研修」、「今日的教育課題別研修」、「専門研修(担当者の専門領域について学ぶ)」とするとともに、実技や実習、ワークショップ型等のより実践的な研修方法を重視した研修講座の構築を行い、35講座を実施した。 ・延べ受講者数 3,135人 ・参加者の受講満足度 98%																	
改善案・方向性		松阪市における今日的課題や講座アンケートの結果等を分析し、保育士や教職員のニーズに合ったより実践的な研修方法を重視した講座構築に努めていく。また、講座案内のチラシやセンターだより、ホームページ等で、講師の経歴や講座内容を紹介する等の工夫を行い研修講座への参加啓発を行っていく。																	

評 価 シ ー ト

★：今年度の総合評価

◆：昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 ドキドキ！ワクワク！ 学びの芽生えを育む就学前教育の充実 】 【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号		3	
						↑ 達成度 ↓ A B C C B A			
事業名		教育相談事業							
担当課		子ども支援研究センター	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算		平成24年度決算	3,035 千円	平成25年度決算	3,381 千円	平成26年度予算	3,373 千円		
事業目的		子どもたちの健やかな成長を願い、心や生活上で悩みを抱えた幼児児童生徒及びその保護者・教職員等関係者への相談を行うことにより、個々の課題解決に向けての歩みを支援する。							
事業内容		必要に応じて関係機関と連携を取りながら、相談者のニーズに応じた相談を実施し、心の安定を図れるよう支援を行う。 ・教育相談（所員による相談）…来所・電話相談、第3土曜相談 ・カウンセラー相談（臨床心理士によるカウンセリング）							
複数年にわたる事業	進捗度等	相談支援をより有効的に進めるため、平成23年度から、「教育相談事業」と平成17年度から開始した専門家による「心のカウンセラー相談員配置事業」の相談事業を統合し、本事業に一本化した。							
	前年度の改善案方向性	カウンセラー相談の回数増等、より相談者のニーズに応じた相談しやすい体制の充実を図る。 各種研修会や担当者会等への積極的な参加により、教育相談担当者の力量アップを図る。							
	取組実績	カウンセラー相談の回数増、土曜相談時間の拡大、夕方相談枠の設定により相談者のニーズに応じた相談体制づくりを進めた。（カウンセラー相談 144回実施）							
検討課題		効果的な相談支援を進めていくために、相談申込み時の早期対応や、継続的・定期的な相談が実施できるよう、体制の充実を図っていく必要がある。 子どもたちの抱える心の課題やその背景は、複雑・多様であり、専門的な視点からの見立てや支援を必要とするケースが増加していることから、担当者の力量を高めるとともに、カウンセラーとの連携を密にして、適切な相談支援を進めていく必要がある。							
当該年度の取組		専門家への相談希望が多いことから、教育相談担当者とカウンセラーの連携をより密にすることに配慮しながら、支援を進めた。また、遊戯療法の用具等の環境面の充実を図った。 相談延べ件数 1,245件 、相談実人数 237人 ・教育相談 807件（面接相談541件、電話相談266件） ・カウンセラー相談 438件、144回実施							
改善案・方向性		相談者のニーズや土曜授業を実施していくことを考慮して、「カウンセラー相談の回数増」「夕方相談枠の実施」等、相談体制の充実を図るとともに、引き続き、各種研修会や担当者会等へ積極的に参加することにより、教育相談担当者の力量アップを図る。							

評価シート

★：今年度の総合評価

◆：昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号		4	
						↑ 達成度 ↓ A B C C B A 重要度 →			
事業名		いじめ等対策事業							
担当課		学校支援課		事業年度		平成21年度～継続中			
予算・決算		平成24年度決算	11,905 千円		平成25年度決算	12,271 千円		平成26年度予算	13,969 千円
事業目的		児童生徒の悩みやストレス等を早期に発見し、心のケアを行うとともに課題の解消に向けた取組を支援するため、専門性を有する相談員（ハートケア相談員）や学校巡回指導員を派遣する。また、学級満足度尺度調査（Q-U）を実施することにより、児童生徒の状況を把握し、いじめや不登校の未然防止に努めるとともに、指導の充実を図る。							
事業内容		・ハートケア相談員の中学校区への配置 ・学校巡回指導員の配置 ・学級満足度尺度調査の実施 ・司法福祉相談の実施 ・カウンセリングマインド向上研修（中学校養護教諭対象）の実施							
複数年にわたる事業	進捗度等	・ハートケア相談員を継続的に配置し、学級満足度調査を継続的に実施することで、児童生徒や保護者と信頼関係が構築され、悩みに寄り添った支援が深まってきている。							
	前年度の改善案方向性	各校ではQ-U等を活用しながら学級づくりを進め、開発的・予防的生徒指導に取り組んでいるが、子どもたちの中には、コミュニケーションが苦手なため問題行動を起こしたり、不登校になってしまっている現状がある。そのため、教職員や相談員自身のスキルアップを図るとともに、養護教諭等とより連携を密にし、日頃の児童生徒の実態を早期に把握することが必要である。本事業を継続し、より有効な手立てを図っていききたい。							
	取組実績	ハートケア相談員を派遣している中学校区を中心に、ハートケア相談員や養護教諭、生徒指導主事等による教育相談体制において、小中連携を図った。							
検討課題		・問題行動の低年齢化が進んでおり、規範意識の醸成を図っていく必要がある。 ・いじめ問題について、Q-U以外にいじめに特化したアンケートを実施し、早期発見に努めているが、児童生徒同士が互いに相手を思いやり、いじめを許さない学級づくりを、更に進めていく必要がある。 ・学校や児童生徒、保護者を支援する上で、相談体制の充実を図るとともに、子ども支援研究センターや育ちサポート室、家庭児童支援室、警察等の関係機関と、より密接な連携をとりながら、チーム支援を行っていくことが重要となってきている。							
当該年度の取組		ハートケア相談員7名を7中学校22小学校に配置し（相談件数5,961件）、学校巡回指導員1名が小中学校を巡回支援するとともに、スーパーバイザー的な役割を果たしている。Q-Uは42校（学級数341、児童生徒数9,996人）で実施し、いじめや不登校の未然防止や学級づくりに活用している。カウンセリングマインド向上を図るため、福島大学青木真理教授を講師に招き、事例検討を中心に研修を行っている。							
改善案・方向性		・小中連携による教育相談体制を見直し、兄弟姉妹関係の情報共有等の充実を図っていく。 ・Q-Uの分析について研修をさらに深め、個々の児童生徒の実態把握や、学級の状態を把握することにより、いじめや不登校を早期に発見するとともに、早期対応に役立てていく。							

評価シート

★：今年度の総合評価

◆：昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号		5	
						重要度 →			
事業名		学びのイノベーション事業				達成度	A		★・◆
担当課		学校支援課	事業年度	平成23年度～平成25年度			B		
							C		
予算・決算		平成24年度決算	1,284 千円	平成25年度決算	1,584 千円	平成26年度予算	C	B	A
事業目的		・子どもたちが情報機器を活用して、主体的、積極的、協働的に学習活動に取り組むことを目指す。 ・教員のICT活用能力、指導力を高め、情報機器を活用した授業が展開されることにより、子どもたちの学習意欲の向上、学力の向上を目指す。 ・ICT教育にかかわる実践や研究のために、教育委員会の支援体制が充実することを目指す。							
事業内容		実証研究校として松阪市立三雲中学校を指定し、フューチャースクール推進事業によって整備されたICT環境を活用して、タブレットPCに導入される生徒用デジタル教科書等を使い授業の形態や学習方法を工夫し、子どもたちの学習意欲及び学力の向上を目指すとともに、その成果や課題点を明らかにし、研究発表会等において発信する。							
複数年にわたる事業	進捗度等	平成23年度はフューチャースクール推進事業における機器の導入、システムの構築が中心で、学びのイノベーション事業においては準備段階の域を出なかったが、平成24年度から実証研究が本格実施され、学校の取組として研修体制も確立されてきた。							
	前年度の改善案方向性	今後、連携事業である総務省「フューチャースクール推進事業」とも連携しながら、生徒の学習意欲や学力の向上を目指し、実証研究を進めていく。 教職員の研修体制を支援し、意欲的な実証研究が行われるようサポートしていく。 費用対効果も充分考えながら、全国でも先進的な取組を財産として、教育の活性化にどのように生かしていくかを具体的に考えるとともに、本事業の成果や課題を踏まえ、他の中学校や小学校の情報教育のあり方について、情報教育指針の策定も含め、検討を進めていく。							
	取組実績	連携事業である総務省「フューチャースクール推進事業」とともに3カ年の研究委託期間が終了し、平成26年度からは市担事業として「教育の情報化」推進事業として、研究推進を継続した。							
検討課題		国の施策としても2020年に1人一台のタブレット機器を配備することが方針として示されているが、フューチャースクール推進事業とともに委託期間が終了し、松阪市独自の取組を進める上で、どのように予算を確保しつつ、どのように各校へ展開していくのかが重要な課題となる。							
当該年度の取組		情報機器を活用して、ノートを大きく写したり、効果的に資料や課題を示したりして、みんなで考え合い、学び合うような学習が行われるようになりつつあり、子どもたちの学習意欲の向上や学習内容の理解が深まるなどの効果が表れてきている。平成25年6月14日と平成25年11月15日に研究発表会を開催したところ、502人の参加であった。教育委員会と学校とが連絡・連携を密にして、現場の意見や状況を把握しながら、情報機器を活用した授業づくりにおける学力の向上などの研究成果を発信した。							
改善案・方向性		平成23年度からの研究により、事業成果は多く、授業における活用事例も多く示すことができ、この取組に対する視察や聞き取りは全国でも注目され、平成25年6月と11月に行った公開研究会の参加者は延べ500人を越えた。 しかし、事業費の規模はあまりにも大きく、さらなる拡大推進には、パソコン教室の改修費と連動するなど、抜本的な対策を検討していかなければならない。							

評価シート

★：今年度の総合評価

◆：昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号		6					
						↑ 達成度 ↓ A B C C B A				重要度 →		★・◆	
事業名		特別支援教育推進事業											
担当課		学校支援課		事業年度		平成17年度～継続中							
予算・決算		平成24年度決算		48,297 千円		平成25年度決算		49,563 千円		平成26年度予算		55,456 千円	
事業目的		特別支援教育は、平成19年度より学校教育法に位置づけられ、すべての小中学校・幼稚園において障がいのある幼児・児童・生徒の支援をさらに充実していくこととなった。これらに伴い、小中学校において障がいのある児童・生徒に対し、学校生活上の介助や学習活動上のサポートを行ったりする「学校生活アシスタント」を必要な学校に配置し、障がいのある児童・生徒への支援の充実と、インクルーシブル教育の推進を図る。											
事業内容		特別支援学級や通常の学級に在籍する重度障がいやLD、ADHD、高機能自閉症等の特別な支援を必要とする児童・生徒に対して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育実践や生活面で人的支援を行う「学校生活アシスタント」を配置し、適切な指導および支援を実施する。											
複数年にわたる事業	進捗度等	本事業は、新市に合併前から行っている事業であり、順調に目的を達成している。平成15年度に介助員の配置としてスタートし、平成19年度以降は、「学校生活アシスタント」と改名し、事業を展開している。											
	前年度の改善案方向性	子どもたちの支援の充実には、人数の確保、支援の質の充実、研修の必要性が大切である。支援の必要な子どもが多様化してきている。医療的な支援や看護師なども必要となってくる。園・学校・家庭・関係機関と綿密な連携を図り、育ちサポート室、通級教室も含め、その子に応じた支援の在り方をさぐり、特別な支援を必要とする児童・生徒一人ひとりの状態等に応じて、きめ細かな支援体制を確立する。											
	取組実績	少しでもきめ細やかな支援体制を確立するため、学校支援アシスタントの数を、平成24年度の52名から平成25年度は、53名と1名の増員を図ることができた。											
検討課題		特別支援学級在籍児童生徒数が平成20年度180名であったのに対し、平成25年度は274名と増加しているように、通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒数も年々増加傾向にある。 また、子どもの実態や保護者の願い、その子にあった教育活動など多様化してきている。そのために「学校生活アシスタント」の増員は不可欠である。特別な支援を必要とする児童生徒の教育的ニーズを把握し、一人ひとりに応じた支援体制を確立し、学校生活や学習上の困難を改善していく必要がある。											
当該年度の取組		学校や育ちサポート室と連携を図り、必要とする学校の状況を把握しアシスタントを配置した。アシスタント対象の研修会を年2回実施し質の向上を図った。子どもを理解・支援するに当たっての留意点等の講演とグループに分かれての意見交流を4月と10月に行った。また、各学校においては、学校長による指示・アドバイス等により、障がいのある児童・生徒への支援の充実を図った。											
改善案・方向性		きめ細やかな支援体制を確立するためには、「学校生活アシスタント」の量的充実も重要であるが、質的向上も重要となる。研修内容を改善するとともに、経験豊かな「学校生活アシスタント」を増やすとともに、支援の仕方や子どもへの対応、職員との連携の仕方等、支援の質の向上を図っていく。											

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号	7	
						↑ 重要度 →		
事業名	読書室いきいきプラン事業					達成度	A	◆
担当課	学校支援課	事業年度	平成17年度～継続中		B			
					C		★	
					C		B	A
予算・決算	平成24年度決算	15,700 千円	平成25年度決算	15,530 千円	平成26年度予算	15,974 千円		
事業目的		中央教育審議会答申、新学習指導要領に示されているように、言語活動の充実には各教科等を貫く重要な内容である。そのために読書活動の推進は必要不可欠であり、学校読書室の活用や環境の整備を行い、生徒の読書活動の充実を図る。						
事業内容		中学校の読書室に司書教諭を配置し、図書の整備を行うとともに、児童・生徒に対し読書案内や図書の貸し出し、返却業務、学習上の問題解決の支援を行ったり、読書室の開閉、読書室のレイアウト等の環境整備を行ったりすることにより、生徒の読書活動の活性化を図る。						
複数年にわたる事業	進捗度等	平成17年度から行っている事業であるが、平成21年度をピークに総貸出冊数や総入館者数が伸び悩み、平成24年度と平成25年度の比較では、入館者数82,521名から75,196と減少し、貸出冊数も26,171冊から23,353冊へと減少している。						
	前年度の改善案方向性	学力学習調査でも明らかになっているが、学力の向上には読解力の向上が必要不可欠であり、子どもたちの読解力、思考力を養うため、読書量の向上を図ることは極めて重要である。さらに、子どもたちにとって使いやすい読書室・身近な読書室になることを目指して学校図書室の現状や取組を把握し、整備を進めて行く。また、就学前の幼稚園から読み聞かせなどの絵本に触れる機会を多く持ち本に対する興味・関心を高めるとともに、地域や保護者の読み聞かせボランティア等の協力を得るなど、平行して本に触れる活動を積極的に進めていく必要がある。						
	取組実績	学校支援ボランティアの登録者数が224名となるなど、保護者や地域住民による読み聞かせ活動などが充実してきている。						
検討課題		事業内容も概ね整理されている。さらに、子どもたちが調べ学習を図書室で行うなど、学力向上に向けた取組を推進していく必要がある。また、読み聞かせやブック紹介をボランティアでできる人材を地域の中で育成できるよう住民協議会等と連携を図る必要がある。						
当該年度の取組		この事業は、リブネットと委託契約を行い、次のような取組を行っている。 ①カウンター業務 ②資料整備業務 ③学校読書室整備業務 ④読書活動推進業務 ⑤学校読書室での学習サポート業務 ⑥相互貸借のサポート業務 ⑦図書委員会のサポート業務						
改善案・方向性		本事業において、図書館便りの配付や図書館司書と生徒がコミュニケーションを図ることにより、図書室が身近な場所となり、子どもたちの読書活動の活性化を図り、貸出冊数や図書館入館者数において一定の成果を得ることができた。 今後は、地域や保護者の読み聞かせボランティア等の支援体制を活用や市立図書館と連携体制の構築など、図書館基本計画と新たな事業展開が求められる状況にある。						

評価シート

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号		8		
事業名		教育支援センター推進事業				↑ 達成度	重要度 →			
							A			
							B			★・◆
							C			
担当課		子ども支援研究センター	事業年度	平成17年度～継続中			C	B	A	
予算・決算		平成24年度決算	2,371 千円	平成25年度決算	2,372 千円	平成26年度予算	2,354 千円			
事業目的		不登校児童生徒が安心して過ごせる居場所を提供し、一人ひとりの状態に応じた指導を行うことにより、学校復帰や社会的自立を支援する。								
事業内容		教育支援センター「鈴の森教室」「うれしの教室」の2教室で、情緒の安定、人間関係づくり、集団適応能力の育成、基礎学力の補充、基本的生活習慣の改善等に向けた支援を行う。 ・通室指導、体験活動 ・保護者の会、担任会、スクールカウンセラー会議 ・不登校相談、学校訪問、事例検討会								
複数年にわたる事業	進捗度等	立地環境を含め異なる雰囲気を持つ2教室の存在の利点を生かした運営を行うことにより、松阪市、多気町、明和町地域の不登校児童生徒が、自分の状態に合った教室を選択でき、より安心して過ごせる居場所を求めやすくなっている。								
	前年度の改善案方向性	「担任会」「保護者の会」の内容充実や参加者の拡大を図り、不登校への理解や対応等について学ぶ機会を充実する。指導員が各種研修会等に積極的に参加し、力量を高めるとともに、効果的な支援の方向性を探っていく。								
	取組実績	2つの教室で、相談や通室指導を通して関わった児童生徒の改善率については、微増微減を繰り返している。(平成17年度51%→平成24年度66%)								
検討課題		周囲と人間関係が築きにくく、1対1対応の必要な児童生徒が増加している。教室での小集団生活の中で、個別対応の時間を確保していくための工夫が必要である。 不登校児童生徒の状態や支援の方向性について、保護者や学校と緊密な情報交換を行い、共通理解を図りながら、それぞれの立場での関わりを重ねていくとともに、適切な保護者支援や学校との円滑な連携に向けた取組を更に進めていく必要がある。								
当該年度の取組		両教室において、通室や相談で関わった児童生徒80人のうち、学校復帰や出席日数の増加で改善が見られた児童生徒は50人であった。(改善率62.5%) ・通室児童生徒数 39人、通室延べ人数 2,228人 - 体験活動(宿泊体験、山登り等) 7回 ・保護者の会 3回、担任会 3回、スクールカウンセラー会議 1回 ・相談延べ件数 1,915件(面接1,153件、電話762件)、学校訪問 249回								
改善案・方向性		指導員間の細やかな情報交換により、児童生徒個々の状態についての共通理解をもとに、日々の通室指導の中で、個別対応などの必要な関わりを計画的・継続的に行うようにする。 「保護者の会」や「担任会」の内容の充実や参加者の拡大を図るとともに、定期的な学校訪問等により、担任や学校関係者との連携をさらに強化する。								

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号		9	
						重要度 →			
事業名		育ちサポート推進事業				↑ 達成度	A		★・◆
担当課		育ちサポート室	事業年度	平成22年度～継続中			B		
							C		
予算・決算		平成24年度決算	16,037 千円	平成25年度決算	15,671 千円	平成26年度予算	C	B	A
事業目的		社会が急激に変化する中で、子どもたちが安心して成長できる、また、子どもたちを安心して育てられる環境の整備を目的とする。特に、今日、子どもの発達に関する支援が大きな課題となってきたおり、子どもたちの育ちを早期から一貫して支援していける、市民にとって利用のしやすい相談支援体制の実現を目指す。							
事業内容		子どもの発達に関する相談の窓口となり、子ども本人や保護者、保育・教育関係者に対して、発達障がいを含む全ての障がいに関する事や子育てや発達に関する事の相談や助言・検査等の支援、障がい児の就学就園の支援を3部局（保健・福祉・教育）連携のもとに行う。また、ネットワーク会議やケース会議など、関係機関との連携をより密にスムーズに行い支援を実施する。							
複 数 年 に わ た る 事 業	進捗度等	早期からの一貫した支援が必要な子どもの様子は多様化しており、一人ひとりのニーズにあった支援が求められている。そこで、相談や検査等のニーズも増加しており、相談員や相談枠を確保する事と、1回の相談をより効率的・効果的に活用していく事が必要である。また、支援をつなげるために関係者で進捗状況をていねいに確認しながら進めていかなければならない。							
	前年度の改善案方向性	保育園、幼稚園、小中学校の特別支援教育の実践を充実するために巡回相談を実施しているが、より有効なものにするために相談員を増員し実施方法を見直した。朝の打ち合わせで相談の進捗状況を確認し、関係機関との連携も確認しながら進めるようにする。							
	取組実績	本人・保護者がより安心できるような就園就学相談をていねいに実施している。巡回相談の報告書を見直し次の相談までに各園校で実践を記入してもらうようにし相続的に取り組めるようにしている。							
検討課題		関連部署との業務分担を明確にし、医療機関も含め、スムーズな連携を行うことが、市民のニーズに応じていくことに繋がる。尚、保護者や学校から中学校卒業後の連携について心配する意見も多く、高等学校や中学校卒業後の進路先や福祉施設等との連携が必要である。 子ども一人ひとりのニーズにあった支援体制を継続して構築できるように、相談内容の検討、巡回相談の有効活用など、より一層の充実が課題となってきた。 業務の性格上、個人情報を取り扱うことが多くその保護と共有・活用については、ケースごとに違いもあり、十分な配慮と慎重さが必要である。							
当該年度の取組		巡回相談の実施方法を見直し、1回の相談を有効に活用するようにしている。 朝の打ち合わせで相談の進捗状況を確認し、関係機関との連携も確認しながら進めるようにする。 平成25年9月に改定された学校教育法施行令をうけ「松阪市障がい児就学支援委員会」の名称や実施方法について検討を進めている。							
改善案・方向性		「松阪市障がい児就学支援委員会」の名称変更や増加する相談件数に対応できるように実施方法を改善する。 高等学校との連携会議を実施していく。 平成28年度設立予定の松阪市子ども発達総合センターとの連携についての検討する。 平成28年度内に完成をめざしている松阪地域特別支援学校（仮称）の整備と連携について検討していく。 ますます増加する相談や検査等の支援ニーズに対しては、相談員の確保や相談枠・訪問時間の検討等を進め、より効率的・効果的な支援方法を探っていく必要がある。発達に関する「総合支援室」としての体制は整いつつあるが、今後、保育園、幼稚園、小中学校での有効な支援体制の確立など、事業の内容の充実に取り組んでいく。							

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号		10				
						↑ 達成度 ↓ A B C C B A				重要度 →		★・◆
事業名		外国人児童生徒いきいきサポート事業										
担当課		人権まなび課		事業年度		平成19年度～継続中						
予算・決算		平成24年度決算		11,629 千円		平成25年度決算		11,329 千円		平成26年度予算	14,026 千円	
事業目的		外国人児童生徒の増加、広域化に伴う、外国人児童生徒の学校への適応支援及び初期の日本語指導等により学校生活での不安を解消するとともに、高等学校への進学や就職など進路指導に関する支援を行う。										
事業内容		- 外国人児童生徒のための初期適応支援教室「いっぽ」の運営。 - 外国人児童生徒の在籍する小中学校へ、巡回による指導補助者(母語スタッフ)の配置。 - 外国人児童生徒および保護者のための進学及び就職に関する進路ガイダンスの開催。										
複数年にわたる事業	進捗度等	市内在住外国人12人及び日本語指導員等を5人雇用し、初期適応支援教室「いっぽ」や外国人児童生徒の在籍校において学校生活への適応支援および日本語学習支援等を行った。										
	前年度の改善案方向性	日本語指導を必要とする外国人児童生徒は、増加の一途をたどっているうえ、在学する学校の広域化が進んでおり、学校への適応支援及び初期の日本語指導のための適応支援はますます必要となっており、継続的に実施していく必要がある。										
	取組実績	初期適応支援教室「いっぽ」や外国人児童生徒の在籍校において学校生活への適応支援および日本語学習支援等を行うにあたり、指導補助者(母語スタッフ)の適切な配置につとめた。										
検討課題		- 母語保障の取り組み - 初来日等の外国人児童生徒の増加に伴う、初期適応支援教室「いっぽ」の日本語指導員等の更なる充実										
当該年度の取組		市内在住の外国人12名及び日本語指導員等5人を雇用し、初期適応支援教室「いっぽ」や外国人児童生徒の在籍校において、学校生活への適応支援及び日本語学習支援等を行った。 - 初期適応支援教室「いっぽ」・・・通級児童生徒数48名 内修了児童生徒数47名 - 小中学校等巡回指導補助・・・小学校15校 中学校6校 幼稚園1園 支援状況1,174回 4,206時間 - 進路ガイダンス・・・開催数1回 参加者数109名										
改善案・方向性		引き続き、外国人児童生徒の在籍状況に応じた支援体制の充実を図るとともに、進路保障に繋がるJSLカリキュラムによる分かりやすい授業づくり等教科学習への支援の充実を図る。また、初期適応支援教室「いっぽ」についても、待機児童生徒の解消に向け学習支援体制の充実を図る。										

評価シート

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号		11	
						↑		重要度 →	
事業名		外国人児童生徒受入促進事業				達成度	A		★・◆
担当課		人権まなび課	事業年度	平成22年度～継続中			B		
							C		
予算・決算		平成24年度決算	4,703 千円	平成25年度決算	4,718 千円	平成26年度予算	C	B	A
事業目的		外国人児童生徒の在籍の多い小中学校をセンター校(久保中学校、第二小学校、第五小学校)、準センター校(殿町中学校、徳和小学校、花岡小学校、幸小学校)に指定し、三重大学、愛知淑徳大学等関係機関の指導、助言、協力を受け、外国人児童生徒の受入体制や日本語指導の充実及びアイデンティティの確立のため、調査研究を行う。							
事業内容		・運営協議会(事業計画の立案、検討、課題改善策の協議)の開催 ・プロジェクト会議(具体的な取り組みについての計画、検討、改善等を協議)の開催 ・ネットワーク会議(取り組み内容や教材など全市的に共有化)の開催 ・センター校・準センター校等への指導補助者(母語スタッフ)の配置 ・就学前支援教室「ふたば」の開催 ・多文化理解授業の実施 ・フォトストーリーづくりの実施 ・日本語指導法連続講座 ・高校見学バス研修							
複数年にわたる事業	進捗度等	日本語指導の必要な外国人児童生徒の在籍が増加、分散化する中で、小中学校への受入体制の整備、学校における日本語指導の充実のため、課題の発掘、改善を行い、国際教室の設置及び運営の充実、教材等の作成等をセンター校、準センター校において取り組んできた。さらに課題の改善等調査研究を進めるとともに、センター校、準センター校の取組の成果を松阪市全体に広めていく。							
	前年度の改善案方向性	更にセンター校、準センター校で初期の日本語指導等の実践研究を進めるとともに、教科指導の充実を図る。							
	取組実績	準センター校を1校新たに指定(幸小学校)し、日本語指導等の実践研究、教科指導の充実を図った。							
検討課題		・学力向上に向けた教科指導能力の向上等 ・アイデンティティ確立のための取り組みの充実							
当該年度の取組		・運営協議会の開催(開催数:2回):事業の立案、発生する課題等の改善策等を協議した。 ・プロジェクト会議の開催(開催数:4回):具体的な取り組みについての計画等を協議した ・ネットワーク会議の開催(開催数:2回):センター校等の取り組みを全市的に情報共有した。 ・担当者会議の開催(開催数:7回):センター校・準センター校担当者が情報交換を行った。 ・小中学校指導補助の実施(642回 2,526時間 小学校12校・中学校6校):母語スタッフ5人により小中学校へ巡回による指導補助を行った。 ・就学前支援教室「ふたば」の開催(開催数:11回、参加幼児数:12人[のべ79人]):次年度 入学予定の幼児対象に小学校で学ぶための日本語学習や生活規律に関する支援や保護者への情報提供を行った。 ・多文化理解授業の実施(開催数1回、殿町中学校・1年生4クラス):三重大学留学生4人により各国の文化・生活について学んだ。 ・フォトストーリーづくりの実施(開催数:1回、参加児童生徒数:14人)愛知淑徳大学の准教授 及び学生の指導のもと、自分の夢や生活に関する写真にナレーションをつける手法で映像にまとめ、自分を発見し、表現することで、アイデンティティの確立への取り組みを行った。 ・日本語指導法連続講座(開催日:8月21日・22日、参加者数のべ49人) 小中学校教職員・初期適応支援教室「いっぽ」のボランティアを対象に、三重大学准教授による「みえこさんのほんご」の指導法を学んだ。 ・高校見学バス研修(開催日:10月27日、見学場所:県内3高等学校、参加者:児童生徒22人・保護者3人・通訳等10人)							
改善案・方向性		センター校・準センター校の取組の成果を松阪市全体に広げるとともに、アイデンティティ確立のための取組の充実を図る。							

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号		12				
						↑ 達成度 ↓ A B C C B A 重要度 →				★・◆		
事業名		学校給食単独調理場備品等整備事業										
担当課		給食管理課		事業年度		平成17年度～継続中						
予算・決算		平成24年度決算		5,648 千円		平成25年度決算		8,181 千円		平成26年度予算	29,995 千円	
事業目的		学校給食単独調理場における作業能率及び衛生管理の向上を図るために、学校給食用備品等の整備を行う。										
事業内容		衛生管理基準に沿った給食備品・機器等の更新を図る。 <対象となる調理場> 本庁管内24小学校(単独調理場)										
複 数 年 に わ た る 事 業	進捗度等	徳和小学校給食室において、空調設備を設置した。										
	前年度の改善案方向性	「安全・安心でおいしい給食」を安定的に提供するため、備品等の整備は必要不可欠であるが、近年、老朽化に伴う修繕費も増加傾向となっている。年々、求められる衛生管理水準も高まっているとともに、作業能率向上等の目的においても重要な事業であり、適正な優先順位を考慮した厨房備品の整備をしなければならない。										
	取組実績	給食備品の的確な現状把握と積極的な施設間における備品移管を推進しながら、適正配備を行った。										
検討課題		各調理場において、備品・設備の老朽化及び、衛生管理基準の見直し等もあり、安全・安心な給食の運営には、基準に見合った備品等を整備することが必要であるが、年次計画で整備しなければならない。										
当該年度の取組		各単独調理場において衛生管理基準に基づいた給食用備品等を購入した。 <主な購入物品> ・徳和小学校給食室空調設備設置工事 ・自動食器洗浄機(第五)、シンクの設置(第一・第四・大河内・松尾)ほか ※空調設備設置工事費4,153千円の内、3,000千円は三重県合併支援交付金として交付										
改善案・方向性		空調設備については、今後も安全・安心な食材管理(衛生管理面)及び労働環境改善の観点から順次導入していきたい。										

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 キッチリ！バッチリ！ 学びの基礎を育む教育の充実 】				番号		13	
						↑ 達成度 ↓ A B C C B A 重要度 → ★・◆			
事業名		学校給食センター備品等整備事業							
担当課		給食管理課		事業年度		平成17年度～継続中			
予算・決算		平成24年度決算	7,479 千円		平成25年度決算	4,316 千円		平成26年度予算	21,681 千円
事業目的		学校給食センターにおける作業能率及び衛生管理の向上を図るために、学校給食用備品等の整備を行う。							
事業内容		衛生管理基準に沿った給食備品・機器等の更新を図る。 ＜対象となる学校給食センター＞ 学校給食センターベルランチ 嬉野学校給食センター 三雲学校給食センター 飯南学校給食センター 飯高学校給食センター（宮前・森調理場）							
複 数 年 に わ た る 事 業	進捗度等	各学校給食センターにおいて衛生管理基準に基づいた給食用備品等を購入した。							
	前年度の改善案方向性	「安全・安心でおいしい給食」を安定的に提供するため、備品等の整備は必要不可欠であるが、近年、老朽化に伴う修繕費も増加傾向となっている。年々、求められる衛生管理水準も高まっているとともに、作業能率向上等の目的においても重要な事業であり、適正な優先順位を考慮した厨房備品の整備をしなければならない。							
	取組実績	給食備品の的確な現状把握と積極的な施設間における備品移管を推進しながら、適正配備を行った。							
検討課題		各給食センターにおいて、備品・設備の老朽化及び、衛生管理基準の見直し等もあり、安全・安心な給食の運営には、基準に見合った備品等を整備することが必要であるが、年次計画で整備しなければならない。							
当該年度の取組		各学校給食センターにおいて衛生管理基準に基づいた給食用備品等を購入した。 ＜主な購入物品＞ ・サイノ目切り機（三雲学校給食センター） ・冷凍冷蔵庫（豊地幼） ・アルマイト保温二重食缶（嬉野学校給食センター）他							
改善案・方向性		今後も安全・安心な食材管理（衛生管理面）及び労働環境改善の観点から給食用備品等を順次導入していきたい。							

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】				番号		14	
						重要度 →			
事業名		こどもまつり大会事業				↑ 達成度	A		★・◆
担当課		いきがい学習課	事業年度	平成17年度～継続中			B		
							C		
予算・決算		平成24年度決算	1,451 千円	平成25年度決算	1,502 千円	平成26年度予算	C	B	A
事業目的		遊びやもの作り等創作を通じて、家族や友達と一日楽しく過ごすことができるイベントを提供することで、子どもたちに色々な体験をしてもらい、郷土の将来を担う子どもたちの育成を図る。							
事業内容		創作や遊びを通じて、子どもたちが家族や友達と一日楽しく過ごすことができる催し物を提供する。 今年度は、快晴に恵まれ、沢山の親子連れ等の参加者がありました。 (中部台運動公園芝生広場(雨天時:さんぎんアリーナ)において、ステージのほか会場内を「あそぶ」・「つくる」・「たべる」のコーナーに分け、ステージでは子どもたちの楽器演奏やダンスパフォーマンス、各ブースでは各種工作やミニサッカー等のゲーム、白バイ乗車や消防服の試着等、実行委員である各関係機関・団体の運営により、子どもたちの楽しめるまつり開催に取り組んでいる。)							
複数年にわたる事業	進捗等	「事業費」については、遊具レンタルの削減や、21年度までは随意契約をしていたテント等のレンタル業務について、仕様書条件の精査等を行い、22年度より入札による業者選定に変更したことによって事業費の削減を図ってきた。また、中学、高校、大学等の学生ボランティア参加は、青少年にとって活動を通じたさまざまな人たちとの出会いがあり人間的成長が促されることから青少年の健全育成に寄与していると考えている。							
	前年度の改善案方向性	中部台運動公園は、松阪市内で最も大きい芝生公園で、駐車場も確保しやすい環境にある。会場及び駐車場を収容的に見て市内にこれ以上大きな会場は見当たらず、参加者も会場に見合った来場があるため、継続使用していきたい。 また、子どもたちの安全確保について、まつり開催における重要な課題であり、実行委員会内において今後とも協議を進めていきたい。							
	取組実績	毎年4月に、松阪市内小中学校および幼稚園・保育園に、生徒、園児数に合わせた枚数の開催チラシを配布。市内生徒、園児数が約1万9千人で、保護者を含め約4万人のうち、半数の2万人が参加していることを考えれば、「こどもまつり」は子育て世代に関心のある、認知された事業となっている。							
検討課題		松阪こどもまつりは36回を迎え、市民に定着しており、事業費削減の中でも、実行委員の努力により多数の方に来場していただいている。その反面、駐車場の許容能力に限界が近づいており対応を検討していく必要がある。また、会場となっている中部台公園芝生広場は、毎年この時期に芝生の張替え養生期間となり、一部使用できない箇所があり、会場レイアウトで苦心している。							
当該年度の取組		○実行委員会:4回開催 ○日 時:平成25年4月28日(日) 午前10時から午後3時まで ○場 所:中部台運動公園芝生広場 ○参加者:20,000人 ○内 容:ステージ、あそぶ・たべる・つくる各コーナーの開設							
改善案・方向性		来場者は駐車場を基に判断した場合、許容量に近い状態にある。しかし、「まつり」というものの性質を考え(皆で楽しく参加すること)、参加者の来場に向けた広報・体制づくりに力を注ぎ、今後もまつりの質を高めるように実行委員と一緒に進めていく。							

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】				番号		15	
						↑ 達成度 ↓ A B C C B A 重要度 → ★・◆			
事業名		青少年健全育成事業							
担当課		いきがい学習課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算		平成24年度決算	6,248 千円	平成25年度決算	6,246 千円	平成26年度予算	6,436 千円		
事業目的		松阪の将来を担う青少年の健全育成を図るため、次代の担い手である青少年が心身ともに健全に育つ環境づくりを目指し、健全育成活動の推進と環境整備を行う。 地域における青少年の健全育成活動の充実・活性化							
事業内容		行政と「青少年育成市民会議」や「各地区健全育成会」が一体となって、講演会・研修会・家庭教育講演会・各種講座・環境浄化活動・街頭啓発等を実施。							
複数年にわたる事業	進捗度等	松阪市青少年育成市民会議においては、平成23年度より市内5市民会議を一本化し、青少年健全育成事業の効率化を図っている。							
	前年度の改善案方向性	青少年健全育成の事業については、社会全体で取り組む必要があると認められる。特に地域での取組がポイントと考えられる。そのための指導者養成や各地域の自主性・自律性を高めることが具体的方策となる。 また、子どもの健全育成のために今後も事業を推進していくが、関係団体等の理解を得て、さらに一層の事業精査、事務改善を図っていく。							
	取組実績	市内青少年育成団体と協力して「青少年育成のつどい講演会」を開催。青少年に関わる大人向けの講演内容で、満足度80%以上を目標とし、25年度は81%の実績となった。							
検討課題		青少年健全育成の事業は、行政の一方的な指導・推進では限界があり、家庭・地域・行政の連携が重要である。 これを実践するためには、各地域に青少年健全育成の事業を推進・指導する意欲と能力を持った「指導者」の養成が必須となる。							
当該年度の取組		○青少年育成のつどい講演会の開催 平成25年12月11日 松阪コミュニティ文化センター ○家庭教育講演会・子ども体験教室等の開催 ○市内24育成会にそれぞれの地域にあった健全育成活動を業務委託 ○松阪市青少年育成市民会議の活動を通じて健全育成事業及び「あいさつ運動」の推進としてミニ懸垂幕等による啓発運動を実施した。							
改善案・方向性		前年度に引き続き松阪市青少年育成市民会議5支部が協力し、青少年を育てる大人に向けた内容の充実を図り「青少年育成のつどい講演会」を開催していく。							

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】				番号		16					
						達 成 度 重要度 A B C C B A				★・◆			
事業名		新成人のつどい開催事業											
担当課		いきがい学習課		事業年度		平成17年度～継続中							
予算・決算		平成24年度決算		456 千円		平成25年度決算		438 千円		平成26年度予算		523 千円	
事業目的		新成人の代表である実行委員が自主的に人生の節目である成人式を企画、運営することにより実行委員の思いのこもった「新成人のつどい」を開催し、新成人を祝福するとともに大人としての自覚を促す。											
事業内容		前半は市長祝辞、新成人謝辞及び後半は、新成人による実行委員会の企画によるアトラクションの構成で開催し、新成人による実行委員会が企画運営する。 (新成人を中心としたメンバーが実行委員会を組織し、企画や運営、PRポスター作成などに、9月下旬から取り組む)											
複 数 年 に わ た る 事 業	進捗度等	平成22年度より、アトラクションとしていたお笑い芸人のステージを見直し、20歳である実行委員自身による手作りのイベントを考案している。											
	前年度の改善案方向性	新成人実行委員にとって成人式を成功させることは大きな自信となり、また社会に目を向けることができる。今後もこのような青少年を対象とした事業を活かし、青少年の人材育成に取り組んでいくことが大切である。 新成人OBや学校との連携等を強化することで、実行委員会の組織強化のために支援していきたい。											
	取組実績	実行委員によるオープニングスライド(母校舎等)の作成、恩師を訪ねビデオメッセージの収録、新成人による主張、抽選会を実施した。											
検討課題		新成人による実行委員の募集が毎年少なく、実行委員会を設置する苦心している。 また、実行委員会組織後においては、価値観の多様化もあり、実行委員が数多く話し合える場を設けることが重要である。しかし、実行委員のほとんどが学生である現状で、実行委員会議出席への時間的制約と実行委員会開催会場の選定など場所的制約が継続的な課題となっている。											
当該年度の取組		実行委員会:6回開催 日 時:平成26年1月12日(日)午前10時～午前11時30分 場 所:クラギ文化ホール 対 象:平成5年4月2日～平成6年4月1日までに生まれた方 参加人数:1,310人(住民登録者数 1,561人) 住民登録者数に対して 83.71%											
改善案・方向性		前年度に引き続き20歳の実行委員による手作りの企画と運営をより充実させて開催していきたい。											

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】				番号		17																										
						↑ 達成度 ↓ A B C C B A 重要度 → ★・◆																												
事業名		図書館管理運営事業																																
担当課		いきがい学習課	事業年度	平成17年度～継続中																														
予算・決算		平成24年度決算	123,169 千円	平成25年度決算	122,782 千円	平成26年度予算	128,743 千円																											
事業目的		図書館施設(松阪図書館・嬉野図書館)を適法・適正に管理し、施設利用者へのサービスの向上を図る。																																
事業内容		・指定管理者制度の導入、図書館コンピューターの利用により、図書館業務の効率化と迅速化を推進する。 ・高度情報化社会の多様なニーズに対応するため、蔵書等の充実を図る。 ・松阪市子ども読書活動推進計画により、ブックスタート事業やボランティアの協力を得て、「絵本の読み聞かせ」等を開催し、子どものための読書活動を推進する。																																
複数年にわたる事業	進捗度等	指定管理者制度の導入による、(株)図書館流通センター(TRC)の管理業務委託は5年目を迎え、図書館業務の効率化と蔵書の充実等が図られるとともに、住民ニーズに応えるサービスの向上(満足度)に関して順調に達成しつつある。																																
	前年度の改善案方向性	司書のスキル習得により、利用者の幅広い要求に対応していくとともに、子どもをはじめとした市民の読書活動を推進していく。また、学校図書室との連携を図っていく。施設の修繕については、担当課とTRCと協議を行い、対応していく。																																
	取組実績	「松尾ふれあい図書館」の運営サポートや「松阪市図書館を使った調べるコンクール」の企画運営に積極的に携わっている。また、児童書コーナーに司書を常駐させ、子ども読書活動のサポートを行い、利用者の利便性向上に努めている。																																
検討課題		図書館の活動内容を、多くの市民に情報発信し、図書館の利用拡大に繋げていく。また、松阪図書館の経年劣化による施設の維持管理費																																
当該年度の取組		○平成25年度各図書館(室)における利用状況等 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>貸出冊数(冊)</th> <th>利用者数(人)</th> <th>25年度末蔵書数(冊)</th> <th>増冊数(冊)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>松阪図書館</td> <td>566,213</td> <td>127,056</td> <td>249,487</td> <td>7,274</td> </tr> <tr> <td>嬉野図書館</td> <td>270,121</td> <td>69,631</td> <td>118,926</td> <td>4,052</td> </tr> <tr> <td>三雲図書室</td> <td>16,926</td> <td>4,923</td> <td>23,051</td> <td>1,471</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>853,260</td> <td>201,610</td> <td>391,464</td> <td>12,797</td> </tr> </tbody> </table>									貸出冊数(冊)	利用者数(人)	25年度末蔵書数(冊)	増冊数(冊)	松阪図書館	566,213	127,056	249,487	7,274	嬉野図書館	270,121	69,631	118,926	4,052	三雲図書室	16,926	4,923	23,051	1,471	計	853,260	201,610	391,464	12,797
	貸出冊数(冊)	利用者数(人)	25年度末蔵書数(冊)	増冊数(冊)																														
松阪図書館	566,213	127,056	249,487	7,274																														
嬉野図書館	270,121	69,631	118,926	4,052																														
三雲図書室	16,926	4,923	23,051	1,471																														
計	853,260	201,610	391,464	12,797																														
改善案・方向性		図書館で行うイベントや講座などを報道機関に積極的に提供し、子どもをはじめとした市民の読書活動を推進していく。また、学校図書室との連携を図っていく。施設の修繕については、担当課とTRCと協議を行い、対応していく。																																

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】				番号		18					
						↑ 達成度 ↓ A B C C B A				重要度 →		★・◆	
事業名		生涯学習振興事業											
担当課		いきがい学習課		事業年度		平成17年度～継続中							
予算・決算		平成24年度決算		13,388 千円		平成25年度決算		13,100 千円		平成26年度予算		14,481 千円	
事業目的		住民の教養の向上、健康の増進等を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的として、定期講座の開設や講習会、講演会等を開催し、これらの公民館事業を通じて豊かな学習機会の提供を行なう。											
事業内容		・45公民館で地域課題や住民ニーズに応じた高齢者学級や女性学級等の連続講座や各種体験教室、伝承文化事業等を開催する。 ・公民館事業たよりを毎月作成し地域へ情報発信するとともに、全地区公民館へ対しても他館のたよりを配布し、市民への周知と、公民館相互の情報共有を図る。 ・市ホームページに「公民館趣味サークル概要」を掲載し、市民への周知を図る。											
複数年にわたる事業	進捗度等	各公民館において、その時代や地域のニーズに応じた講座を開催し、事業を通じた地域の交流が図れている。											
	前年度の改善案方向性	地域や時代の要請に応じた生涯学習を推進し、その成果を住民協議会の運営や地域づくりに繋げていく。											
	取組実績	家庭や地域での子育てを支援するため、公民館において136講座実施した。											
検討課題		・公民館職員としての役割を再確認し、公民館が担う人材育成や学習の成果を地域に生かすべく、地域住民との連携を深める必要がある。											
当該年度の取組		公民館において、住民ニーズ等に応じた学習機会を提供するとともに、多様な教育環境の中で地域社会に参画できる人材の育成を目指して、各管内で講座を実施した。 ○生涯学習振興事業(松阪) 26館・講座数 314講座・開催日数 586日・受講者延数 18,629名 ○生涯学習振興事業(嬉野) 7館・講座数 142講座・開催日数 469日・受講者延数 6,080名 ○生涯学習振興事業(三雲) 5館・講座数 133講座・開催日数 482日・受講者延数 6,287名 ○生涯学習振興事業(飯南) 1館・講座数 14講座・開催日数 131日・受講者延数 1,239名 ○生涯学習振興事業(飯高) 6館・講座数 63講座・開催日数 266日・受講者延数 3,515名											
改善案・方向性		公民館職員に対し、社会教育法など基礎的な知識の研修や地域での活動状況を聞き取り、地域や時代の要請に応じた生涯学習を推進し、その成果を住民協議会の運営や地域づくりに繋げていく。											

評価シート

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 市民による、市民のための生涯教育の推進 】				番号		19	
事業名		人権学習推進事業				↑ 達成度	重要度 →		
担当課		人権まなび課		事業年度			平成19年度～継続中		
予算・決算		平成24年度決算	8,568 千円	平成25年度決算	5,584 千円		平成26年度予算	2,846 千円	
事業目的		さまざまな人権問題に関する学習機会を提供し、市民一人ひとりの人権意識の高揚を図る。							
事業内容		・人権を考える市民講座等人権講座の開催 ・中学校区市民講演会等人権講演会の開催							
複数年にわたる事業	進捗度等	さまざまな機会を利用しながら、多様化する人権課題について学習機会を提供することで、人権意識の高揚を図ってきたが、社会の背景の変化とともに生起する人権問題(放射能汚染に伴う人権問題等)への対応や地域の課題に即した人権学習の機会提供を継続して実施していく。							
	前年度の改善案方向性	社会的な背景の変化等を見極めながら状況に応じた人権課題についての講演会等の実施により住民が主体となって人権教育を推進していけるよう支援していく。							
	取組実績	人権尊重社会の実現に向け、社会教育における人権に関する学習機会の提供を目的に人権講座、人権講演会等を開催し、住民主体の人権学習の支援を行った。							
検討課題		市民一人ひとりの人権意識が、態度や行動に結びつく効果的な教育・学習活動の充実							
当該年度の取組		・人権講座の開催（開催数:39回、参加者数:1,446名） ・人権講演会の開催(開催数:16回、参加者数:2,243名) ・人権啓発冊子(講演記録のまとめ)の発行 3,000部							
改善案・方向性		今後も、社会的な背景の変化を見極めながら状況に応じた人権課題についての講演会等の教育・学習機会を提供し、より効果的に住民主体の人権学習が行われるよう支援を行う。							

評 価 シ ー ト

★：今年度の総合評価

◆：昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】				番号		20													
						↑		重要度 →													
事業名		市美術展覧会開催事業				達成度		<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td></td> <td></td> <td>★</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td></td> <td></td> <td>◆</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		A			★	B			◆	C			
A			★																		
B			◆																		
C																					
担当課		文化課		事業年度		平成17年度～継続中															
予算・決算		平成24年度決算		2,212 千円		平成25年度決算		2,297 千円													
						平成26年度予算		2,518 千円													
事業目的		美術文化の祭典として美術鑑賞の機会を提供し、住民の美術創作意欲を高めるとともに、美術に対する理解を深め、松阪地域の美術水準の向上を図る。																			
事業内容		松阪市で唯一の公的な美術展覧会として、「絵画」「彫刻・工芸」「写真」「書道」の4部門、会期2部制で開催する。																			
複数 年 に わた る 事 業	進捗度等	松阪市美術展覧会は、昭和35年より開催され、平成25年度で54回目を迎えた。																			
	前年度の改善案方向性	出品作品の多様化に対応できる部門や次世代の人材発掘ができるような運営のあり方を運営委員会で検討した結果、平成21年度からは従来の6部門を「絵画」「彫刻・立体」「写真」「書道」の4部門に変更し、平成22年度は「彫刻・立体」を「彫刻・工芸」に名称変更するなど、出品しやすい環境づくりに努めている。また若年層からの出品が少なく、出品年齢が高齢化している点について、高校生以下の出品料無料化を引き続き継続するとともに、次代の松阪市を担う新たな才能の育成や芸術教育の振興に寄与できるよう各高校へ働きかけをしていく。																			
	取組実績	平成21年度からは従来の6部門を「絵画」「彫刻・立体」「写真」「書道」の4部門に変更し、平成22年度は「彫刻・立体」を「彫刻・工芸」に名称変更するなど、出品しやすい環境づくりに努めた。 また、出品作品の多様化に対応できる部門や、次世代の人材発掘ができるような運営のあり方を、松阪市美術展覧会運営委員会で検討し、平成24年度からは高校生以下の出品料を無料にし、次世代の人材発掘に努めた。																			
検討課題		絵画部門の審査については、洋画3名、日本画3名の計6名の審査委員で公開審査を行っているが、水墨画の出品数が年々増えていく中、水墨画部門の新設、並びに審査及び審査委員選出の方法を改めてはどうか等の意見が出されている。 また、若年層からの出品が少なく、出品者の年齢が高齢化している。																			
当該年度の取組		<table border="0"> <tr> <td>○運営委員会の開催</td> <td>○審査結果の発表</td> </tr> <tr> <td>○審査委員の決定</td> <td>○展覧会の開催</td> </tr> <tr> <td>○開催要項、ポスターの作成及び配布</td> <td>○入賞者の表彰</td> </tr> <tr> <td>○作品募集</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○高校生以下の出品料無料化</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○審査</td> <td></td> </tr> </table>								○運営委員会の開催	○審査結果の発表	○審査委員の決定	○展覧会の開催	○開催要項、ポスターの作成及び配布	○入賞者の表彰	○作品募集		○高校生以下の出品料無料化		○審査	
○運営委員会の開催	○審査結果の発表																				
○審査委員の決定	○展覧会の開催																				
○開催要項、ポスターの作成及び配布	○入賞者の表彰																				
○作品募集																					
○高校生以下の出品料無料化																					
○審査																					
改善案・方向性		専門家等の意見、ならびに審査会と会期時に実施したアンケートの意見などを集約し、市民公募の運営委員を中心に、運営のあり方を検討する中、平成26年1月30日に開催した運営委員会において、平成26年度開催の市展については、水墨画を専門で審査ができる審査委員を加える案が採択された。 また、出品者の年齢が高齢化している点については、高校生以下の出品料無料化を引き続き継続するとともに、次代の松阪市を担う新たな才能の育成や芸術教育の振興に寄与できるよう、市内及び近隣の中学校、高校等へ出品を促す広報活動を行っていく。																			

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】				番号		21	
						↑ 重要度 →			
事業名	文化芸術団体共催事業					達成度	A		★・◆
担当課	文化課	事業年度	平成24年度～継続中		B				
					C				
							C	B	A
予算・決算	平成24年度決算	665 千円	平成25年度決算	80 千円	平成26年度予算	229 千円			
事業目的		文化芸術団体のネットワーク組織である「松阪市文化芸術団体連絡協議会」の各ジャンルの取組を、同協議会を通じて共催事業という形で支援し、文化振興を図る。							
事業内容		文化センターでの公演並びに文化財センターギャラリーでの展示会等を実施し、より多くの市民に芸術文化の鑑賞及び体験の機会を提供することにより、芸術文化に対する関心を深める。							
複数年にわたる事業	進捗度等	平成23年7月、市内で活動する様々な文化芸術団体がジャンルごとにまとまり、そのネットワーク組織である「松阪市文化芸術団体連絡協議会」が設立され、当協議会を文化振興の核となる組織として位置づけた。							
	前年度の改善案方向性	これまで一緒に活動していなかった他のジャンルの団体相互で交流を深め、団体同士がコラボレーションするような企画を行っていくことも、協議会を活性化させるために必要である。							
	取組実績	事業開始年度である平成24年度は、「松阪市民ギター音楽祭」、「松阪市民謡民舞まつり」、「邦楽演奏会」、「ミュージカルBeOne 公演」、「松阪写真交流会フォトフェスティバル」、「松阪美術協会展」の6事業を共催事業として実施し、文化芸術の普及、振興に資する事業の充実を図るとともに、松阪市文化芸術団体連絡協議会を活性化させた。							
検討課題		松阪市文化芸術団体連絡協議会は、合唱、声楽、吹奏楽、軽音楽、ギター、ピアノ、フルート、邦楽、能楽、民謡民舞、演劇、美術、写真の13ジャンルの文化団体で構成されている。市内には松阪音楽文化協会や嬉野文化協会、三雲文化協会が存在するが、各協会に加入されている団体の一部しか同協議会に加盟されていない。 また、松阪市文化芸術団体連絡協議会の加盟団体相互の情報の共有及び交流を目的とした会議を、年2回程度しか開催していない。							
当該年度の取組		「松阪市民ギター音楽祭」、「松阪市民謡民舞まつり」、「合同コンサート 永遠のスクリーンミュージック」、「松阪写真交流会フォトフェスティバル」の4事業を共催事業として実施した。							
改善案・方向性		文化芸術の普及、振興に資する事業をより一層充実させるには、文化芸術のネットワークを構築する連絡協議会を活性化させることが重要であり、そのためには交流の機会を増やし、加盟団体間、並びに市との連携を強化する必要がある。							

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】				番号	22	
						重要度 →		
事業名	歴史的建造物公開事業					↑ 達成度	A	★・◆
担当課	文化課	事業年度	平成17年度～継続中		B			
					C			
					C		B	A
予算・決算	平成24年度決算	3,774 千円	平成25年度決算	18,250 千円	平成26年度予算	25,289 千円		
事業目的		重要文化財「御城番屋敷」、市指定文化財「原田二郎旧宅」、市史跡「旧長谷川邸」など、歴史的に貴重で意義のある建造物を一般公開することで、市民や市外からの入館者に歴史的遺産の貴重な価値をアピールするとともに、その保全・活用を推進する。						
事業内容		御城番屋敷・原田二郎旧宅・旧長谷川邸を公開するとともに、建造物、庭園等の文化財的な価値を維持するため必要な管理を行う。また、市内に所在する歴史的建造物及び史跡の特別公開を行なうことにより、文化財保護を市民に周知するなど、保存活用に関する普及啓発活動を行う。						
複数年にわたる事業	進捗度等	平成2年度から「御城番屋敷」、平成24年10月から「原田二郎旧宅」、平成25年度から「旧長谷川邸」の公開を開始してきた。						
	前年度の改善案方向性	今後も継続し、入館者の増加に向けた効果的な公開・展示方法を検討する。						
	取組実績	市広報、HPでの公開告知を行うなど、各種媒体を通じてのPRIに努めた。 原田二郎旧宅、旧長谷川邸のパンフレットを作成し、入館者に配布することで文化財理解の一助とした。						
検討課題		文化財建造物は、経年劣化により様々な補修を要するが、法的な手続き、継続的な経費負担など、その維持管理には課題が多い。所有者の理解と協力を得ながら、歴史的視点にたった「まちの魅力」発信、文化財保護の意義への幅広い理解を得るためにも、今後、市民目線に立ったわかりやすい手法で文化財保護に係る啓発活動を推進する必要がある。						
当該年度の取組		※一般公開及び特別公開を実施 【入館者数】 ・御城番屋敷(平成2年度から実施) 平成23年度 30,268人 平成24年度 32,925人 平成25年度 36,418人 ・原田二郎旧宅(平成24年10月から実施) 平成24年度 5,829人 平成25年度 6,911人 ・旧長谷川邸(平成25年7月から実施)						
改善案・方向性		当該事業は今後も継続する。 入館者の増加に向け、効率的な公開・展示方法や、市民目線に立ったわかりやすい解説を検討する。						

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】				番号		23	
						↑ 達成度		重要度 →	
事業名		文化財保存整備事業補助金				A		★・◆	
担当課		文化課		事業年度		平成17年度～継続中		B	
								C	
予算・決算		平成24年度決算		771 千円		平成25年度決算		866 千円	
						平成26年度予算		0 千円	
事業目的		国・県・市指定の文化財の適正な保存管理と活用を図るため、市内に所在する指定文化財の修理に対して、補助金を交付することにより、本市の歴史・文化または自然を理解し、地域の特性を考えるために欠くことのできない大切な文化財を後世に繋げていく。							
事業内容		指定文化財の管理または修理に要する費用の一部を、所有者または管理団体に対して補助する。							
複数年にわたる事業	進捗度等	必要に応じて補助金を交付することで、一定数の貴重な文化財が修復されてきた。							
	前年度の改善案方向性	今後も、国、県、市指定文化財の修理について、文化財保護の観点から、必要に応じ規定の補助金を交付する。							
	取組実績	機会あるごとに指定文化財所有者に対し、補助金制度にかかる情報提供を行うとともに、申請に際して事務的なサポートを実施した。							
検討課題		修理する際の様々な手続き、必要経費の負担など、その維持管理には様々な課題がある。そのような状況下で、文化財を守っていただいている所有者の負担を少しでも軽くできるよう、経費の一部を補助していかなければならない。市民の理解と協力を得ながら、歴史的な視点から「まちの魅力」発信、文化財保護活動の意義について広く理解を得られるよう、市民目線に立ったわかりやすい手立てを講じていく必要がある。 また、指定文化財を保管する土蔵等の収蔵庫の劣化による文化財への悪影響が懸念される事例もあり、当該文化財以外への補助金交付についても検討する必要がある。							
当該年度の取組		本宗寺所有の県指定有形文化財、蓮如・如光上人連坐像(絵画)の保存修理に要する経費の一部を補助した。 補助金額 866,000円(全体工事費 3,466,000円)							
改善案・方向性		国県と協議する中で、貴重な文化財を管理、修理する費用に対する有効な補助金制度についての情報収集を行いながら、文化財保護の観点から、必要に応じ規定の補助金を交付していく。							

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】			番号		24	
					↑ 重要度 →			
事業名	原田二郎旧宅保存整備活用事業				達成度	A		★・◆
担当課	文化課	事業年度	平成22年度～平成25年度			B		
						C		
予算・決算	平成24年度決算	13,217 千円	平成25年度決算	1,701 千円	平成26年度予算	C	B	A
事業目的		殿町の武家屋敷の景観保全地域において、公益財団法人原田積善会から江戸時代末の武家屋敷の建物(原田二郎旧宅)と敷地の寄贈を受けたため、武家屋敷の復元を主とし、原田二郎を顕彰する施設として整備し、公開・活用を図る。						
事業内容		市指定文化財である武家屋敷(原田二郎旧宅)の修復及び庭園整備などの工事を行ない、松阪出身の篤志家 原田二郎を顕彰する施設として整備し、公開する。						
複数年にわたる事業	進捗度等	平成22～23年度にかけて復元工事等を実施。平成24年9月10日に屋外付帯工事を終え、10月より一般公開を開始。						
	前年度の改善案方向性	原田二郎旧宅の公開により、史跡松坂城跡、重要文化財御城番屋敷に次ぐ見学スポットが誕生した。殿町地区の文化財めぐりに新たな拠点が加わったことで、見学者の新たな流れができ、相乗効果として御城番屋敷の入館者数の増加にも繋がっており、今後、この流れを止めないような公開に係る更なる工夫をしていく必要がある。						
	取組実績	平成22年度から平成24年度にかけて、原田二郎旧宅に係る復元工事、庭園整備としての樹木伐採及び樹木移植等、一般公開に向けての屋外付帯工事等を行なった。						
検討課題		古い建造物のため、修理する際の様々な手続き、必要経費の負担など、その維持管理には様々な課題がある。 市民の理解と協力を得ながら、歴史的な視点から「まちの魅力」発信、文化財保護活動の意義について広く理解を得るため、市民目線に立ったわかりやすい手立てを講じていく必要がある。						
当該年度の取組		原田二郎旧宅保存整備活用事業の最終年度となる当該年度において、東屋を設置し、庭園整備を図った。						
改善案・方向性		関係部局と連携し、各種パンフレット等への観光案内を掲載することで、市民及び観光客への周知を行っていく。						

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】				番号	25	
						↑ 達成度 ↓	重要度 →	
事業名	松浦武四郎誕生地保存整備活用事業				A			★・◆
担当課	文化課	事業年度	平成19年度～平成29年度		B			
					C			
予算・決算	平成24年度決算	864 千円	平成25年度決算	18,577 千円	平成26年度予算	17,291 千円		
事業目的		松浦武四郎の実家として市が史跡に指定する「松浦武四郎誕生地」(昭和37年三雲村指定)について、史跡の保存および公開・活用を図る。						
事業内容		史跡に指定された土地は、土地開発基金により先行取得していたものであるため、史跡地を購入して教育財産とする。 また、史跡を構成する重要な要素である建物について、主屋、離れを中心に、土蔵や納屋を改修し、その保存を図るとともに、公開・活用に努める。						
複数年にわたる事業	進捗度等	これまで、史跡の保存及び公開・活用を図るため、松浦武四郎誕生地整備検討委員会で検討を重ね、平成24年度は2度のシンポジウムを開催し、市民や子どもたちから広く意見をいただき、平成25年度はそれらの意見を反映させる形で活用方法を一から練り直した。						
	前年度の改善案方向性	史跡の整備・活用について、市民や地域の代表を交えて話し合うことで、史跡を地域で守ろうとする機運も高まり、松浦武四郎誕生地保存会が結成された。これまでに史跡の維持管理に協力をしていただいております、今後も地域の宝として史跡を守っていただけるよう依頼していく。						
	取組実績	平成24年度には、史跡の活用について市民の意見を聞くシンポジウムを2回開催し、保存整備に向けて市民の理解が得られるよう努めてきた。						
検討課題		史跡の公開と活用には、地域住民の理解と協力が不可欠であり、地域に愛され、地域が利用できるようにしなければならない。 一方、市民や子どもたちの意見の中には、さまざまな人びとが集い、交流できる場としても、史跡を活用していくことを求める声もあり、文化財としての価値を損なうことがないよう、保存と活用のバランスをうまく取ることが課題となっている。						
当該年度の取組		・松浦武四郎誕生地整備検討委員会の開催→年1回 ・史跡の維持管理→松浦武四郎誕生地保存会へ建物の風通しと除草・清掃作業を委託 ・史跡地の購入→土地開発基金により先行取得した土地を教育財産に買い戻す ・不要建物解体工事→松浦武四郎の生きた時代より新しい建物を解体撤去						
改善案・方向性		地域の住民協議会である小野江まちづくり協議会で、市が求める地域計画を策定していく上で、史跡を活かしたまちづくりを行うことが決定された。 今後は地域への状況説明を行い、松浦武四郎誕生地保存会や、小野江まちづくり協議会に保存整備・活用に向けた理解と協力が得られるよう努める。						

評価シート

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【個性あふれる文化・芸術の振興】			番号	26	
					↑ 達成度 ↓	重要度 →	
事業名	指定文化財保存修理事業			A			★
担当課	文化課	事業年度	平成24年度～継続中	B			
				C			
予算・決算	平成24年度決算	2,682 千円	平成25年度決算	7,519 千円	平成26年度予算	10,770 千円	
事業目的		国・県・市が指定する有形文化財について、傷みが激しい資料の保存修理を計画的に行い、100年、200年先へと貴重な文化財を後世に伝えるとともに、文化財を保護するだけでなく、活用することにより、観光、まちづくり、人づくりなど様々な分野において役立てる。					
事業内容		平成25年度から平成26年度にかけて、重要文化財に指定された松浦武四郎関係資料のうち、「蝦夷屏風」の保存修理を行っている。					
複数年にわたる事業	進捗度等	平成25年度から5か年の計画で、重要文化財「松浦武四郎関係資料」のうち、松浦武四郎の自筆または出版をした資料で、特に傷みが激しいものについて保存修理を進めている。					
	前年度の改善案方向性	前年度の記載はなし					
	取組実績	平成24年度 市指定文化財 宇田荻邨筆「鯰」(えり)保存修理 平成25年度 重要文化財 松浦武四郎関係資料「蝦夷屏風」保存修理					
検討課題		平成25年度の修理の中で、屏風の下張りから、松浦家に関係する文書が2,000枚(推計)も発見された。そのまま放置する事ができないため、文化庁・三重県とも協議の上、それらの文書を屏風から全て取り外し、使われている場所ごとに箱に入れて保存する作業を追加することとした。 今後は、ただ修理をして終わるのではなく、修理された資料をどう活用していくかが課題であり、そのために様々な活用方法を考える必要がある。					
当該年度の取組		・蝦夷屏風保存修理業務委託(平成25年6月18日～平成27年3月20日) ・市民向けの講座を2回開催→松浦武四郎記念館友の会の協力を得て実施					
改善案・方向性		事業費のうち、国50%、県7%の補助金を受けるとともに、修理費の10%についてコスモス文化振興基金を活用し、一般財源の負担を減らすよう努めている。					

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 個性あふれる文化・芸術の振興 】				番号		27																	
						↑ 達成度 重要度 → <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td></td> <td></td> <td>★</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>C</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>C</td> <td>B</td> <td>A</td> </tr> </table>				A			★	B				C					C	B	A
A			★																						
B																									
C																									
	C	B	A																						
事業名	長谷川家資料調査事業																								
担当課	文化課	事業年度	平成25年度～平成29年度																						
予算・決算	平成24年度決算	0 千円	平成25年度決算	4,177 千円	平成26年度予算	5,525 千円																			
事業目的	「江戸店持ち伊勢商人」長谷川家が、江戸時代から現在まで保存してきた商業関係資料及び道具類は、近世から現代に至るまで続く商家における経済活動を研究する上で、非常に重要な資料である。これを調査し、目録化するすることで今後の「江戸店持ち伊勢商人」を通じた近世期における商業研究の基礎資料とする。 また、資料を目録化することで、将来の文化財指定に係る基礎資料とする。																								
事業内容	平成20年度から平成24年度までの「長谷川家文書調査事業」に引き続き、新たに平成25年度から5か年の計画で、長谷川家から松阪市に寄贈された諸資料(古文書と書籍、生活道具類、美術工芸品)について、専門委員による調査を実施する。 また、調査の成果は報告書として刊行し公表する。																								
複数年にわたる事業	進捗度等	当初予定していた調査分については完了。																							
	前年度の改善案方向性																								
	取組実績																								
検討課題	対象となる資料の数が膨大な量であり、限られた時間で事業を完了するためには、効率的に調査を進める必要がある。 そのため、対象年代等について調査に係るルールを作成するなどの手立てが必要。 調査終了後の各種資料の保管場所、方法等についても検討が必要。																								
当該年度の取組	調査報告書刊行に必要な基礎的調査を計画的に進めた。(各種資料班別に月2回) 文書約30,000点のうち、約7,000点の調査、データ化が完了。 書籍約750点、美術工芸品約500点のうち、書籍約530点の調査、データ化が完了。 生活道具類約1,100点のうち、全ての概況調査が完了。平成26年度より本調査、データ化の予定。																								
改善案・方向性	調査を進めるにあたり、新たに確認される資料(文書・書籍)があることから、調査に要する手間が予想以上にかかることも考えられる。非常勤職員の雇用により作業効率を上げるなど調査方法の改善を行なう。また、PCの導入を進めることで作業効率の向上を図る。																								

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】				番号		28	
						↑ 達成度 ↓ A B C C B A 重要度 → ★・◆			
事業名		全国大会等出場派遣支援事業							
担当課		スポーツ振興課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算		平成24年度決算	3,899 千円	平成25年度決算	3,409 千円	平成26年度予算	5,000 千円		
事業目的		市民のスポーツに対する関心を深め、日頃のスポーツ活動の成果として全国大会などに出場する市民等に激励金を支給し、全国大会等の大会などで3位以内に入賞した選手を表彰することにより、トップ選手の育成に努め本市のスポーツ振興を図る。							
事業内容		○激励金の交付 予選を勝ち抜いて全国大会に出場する選手等に対し、1人につき10,000円の激励金を交付する。（国際大会は50,000円、オリンピックは100,000円） ○スポーツ賞の授与 全国大会3位以内入賞した選手、または国際大会出場した選手の中から松阪市スポーツ賞選考委員会において選考を行いスポーツ賞を授与する。							
複 数 年 に わ た る 事 業	進捗度等	各種全国大会や国際大会に出場する個人、団体を対象に激励金を交付するとともに、全国大会等での上位入賞者へスポーツ賞を授与し、競技者の向上心を高め、市民のスポーツの振興を図っている							
	前年度の改善案方向性	スポーツ賞においては、従前の勲功章を平成23年度に名称や交付対象者などの制度の協議をおこない24年度から改正した。今後も制度の効率的な運用を図りながら、市民の競技スポーツに対する意識の高揚を図っていききたい。							
	取組実績	平成24年度からスポーツ賞として名称を変えスポーツ賞、スポーツホープ賞スポーツ大賞を選考し表彰した。							
検討課題		近年、各種目において多くの全国大会が開催されるようになってきている。要項を定めて交付を行っているが、市町によって交付される大会とされない大会がある。近隣市町にも同じ制度があり今後も県内の制度を調査し事業の内容を協議していききたい。							
当該年度の取組		平成25年度実績 ○激励金の交付 16団体165人、個人185人 計350人 ○スポーツ賞の授与 団体 スポーツ賞 1 個人 スポーツ賞 20、スポーツホープ賞6、スポーツ感動賞2 スポーツ賞、スポーツホープ賞の中からスポーツ大賞1名を選考し表彰した。また、松阪市にゆかりのあるアスリートでスポーツを通じて多くの感動を与えた2人にスポーツ感動賞を授与した。							
改善案・方向性		スポーツ賞においては、世界大会、全国大会等で活躍した選手を積極的に表彰し、市民の競技スポーツに対する意識の高揚を図っていききたい。							

評価シート

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】				番号		29		
事業名		スポーツ大会等運営事業				↑ 達成度	重要度 →			
担当課		スポーツ振興課	事業年度	平成17年度～継続中			A			
							B			★・◆
							C			
予算・決算		平成24年度決算	1,483 千円	平成25年度決算	1,346 千円	平成26年度予算	C	B	A	
事業目的		生涯を通じて健康で充実した生活を営むことができるよう、市民により多くのスポーツを楽しむ機会を提供し、また地域の特色あるスポーツ事業を実施し、地域住民のスポーツに参加する機会を増やす。								
事業内容		・各種市長杯争奪大会(春季・秋季ママさんバレーボール大会、ソフトバレーボール大会、グラウンドゴルフ大会、卓球大会)、児童水泳記録会などを体育協会やスポーツ推進委員連絡協議会に委託し、多くの市民にスポーツの参加機会を提供する。 ・各振興局管内は、地区体育振興会がスポーツ推進委員等と協力して、地域内における「健康づくりのためのスポーツ」事業やスポーツを通じたコミュニティづくりなど、それぞれ特色のあるスポーツ活動を展開する。								
複数年にわたる事業	進捗度等	市内各所で誰でもが参加できるスポーツ大会を行い市民が参加しやすい大会を開催している。								
	前年度の改善案方向性	平成24年度から受益者負担による大会運営方法などの見直しを行った。また、市内各所で誰でもが参加できるスポーツ大会を行い市民が参加しやすい大会を開催していきたい。								
	取組実績	各種大会で受益者負担を行い、また、各地域振興局管内のスポーツ大会等の周知を行った。								
検討課題		参加人数が少ない大会もあり多くの市民が気軽に参加できるように大会運営方法や競技種目を検討する必要がある。								
当該年度の取組		○市長杯関係大会 ママさんバレーボール大会の開催・・・405人参加、ソフトバレーボール大会の開催・・・294人参加、グラウンドゴルフ大会の開催・・・230人、卓球大会の開催・・・中学生の部295人、一般・小学生の部ダブルス38組・個人95人参加 ○児童水泳記録会の開催・・・180人参加(27校) ○振興局管内開催分 嬉野管内 ふれあいフェスティバル、なめり湖健康ウォーキング 三雲管内 松阪市シャフルボード大会inみくも、松阪市カローリング大会inみくも、松阪市スカットボール大会INみくも、飯南管内 ジョギング大会IN茶倉、市民駅伝飯南大会 飯高管内 ビーチボールバレー大会								
改善案・方向性		地域振興局管内で行われている大会の周知を図り他の大会との連携も図りながら、市内各所で誰でもが参加できるスポーツ大会を行い市民が参加しやすい大会を開催していきたい。								

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】				番号		30													
						↑ 重要度 → <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td rowspan="3" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">達成度</td> <td>A</td> <td></td> <td></td> <td>★</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td></td> <td></td> <td>◆</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>C</td> <td>B</td> <td>A</td> </tr> </table>				達成度	A			★	B			◆	C		
達成度	A			★																	
	B			◆																	
	C																				
		C	B	A																	
事業名	シティマラソン大会事業																				
担当課	スポーツ振興課	事業年度	平成17年度～継続中																		
予算・決算	平成24年度決算	3,500 千円	平成25年度決算	3,500 千円	平成26年度予算	8,000 千円															
事業目的	シティマラソンは、参加者の健康増進を図るとともに市内外から多くの参加者を集め、大規模なスポーツイベントとして開催することにより地域の活性化を図る。																				
事業内容	松阪市最大のスポーツイベントとして、松阪地区陸上競技協会を中心とした実行委員会を組織して実施する。 種目 【10kmの部、5kmの部、3kmの部、ペアジョギングの部、ウォーキングの部】 主催 松阪シティマラソン大会実行委員会、松阪市、松阪市教育委員会 大会コース 中部台運動公園 周辺道路(ランニングの部) 鈴の森公園⇒中部台運動公園(ウォーキングの部) メイン会場 中部台運動公園市民芝生広場(ランニングの部) 鈴の森公園(ウォーキングの部) 申込方法 郵便局窓口での申し込み インターネットでの申し込み																				
複数年にわたる事業	進捗度等	平成17年の合併後第1回を開催し毎年市内外から多くの参加者を集め、大規模なスポーツイベントとして開催している。																			
	前年度の改善案方向性	ハーフマラソンの導入に向けて、松阪地区陸上協会や関係団体と協議を行っており、会場は現在一部共用開始している松阪市総合運動公園を検討している。是非参加者からの要望の多いハーフマラソンの導入をおこなっていきたい。																			
	取組実績	松阪地区陸上協会や関係団体とハーフマラソン協議を行った。																			
検討課題	第9回目を終えて参加者も過去最高になり、これからの課題としてハーフ部門の導入とこれに併せて多くのランナーが参加できる大会会場の検討が必要である。																				
当該年度の取組	第9回松阪シティマラソンには、大会史上最多の2,881人の参加申込があり、年々市外からの参加者も増加し盛大に開催することができた。																				
改善案・方向性	現在、ハーフマラソン開催に向けて、松阪シティマラソン大会実行委員会が準備を行っている。ハーフマラソンは松阪市総合運動公園をスタートして県道御麻生園豊原線を使い安楽町・山添町・中万町・射和町等を通り庄町で折り返して松阪市総合運動公園をゴールとするコースで検討を進めている。																				

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】				番号		31	
						↑ 達成度 ↓ A B C C B A 重要度 →			
事業名		体育施設整備事業							
担当課		スポーツ振興課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算		平成24年度決算	42,101 千円	平成25年度決算	9,228 千円	平成26年度予算	8,824 千円		
事業目的		競技スポーツから軽スポーツまで市民が気軽に親しめる多様なスポーツ振興を図ることのできる施設の環境整備を進める。							
事業内容		○松阪公園プール底面等塗装改修工事 ○松阪公園プールスライダー内面補修工事							
複数年にわたる事業	進捗度等								
	前年度の改善案方向性								
	取組実績								
検討課題		施策の目標でもある競技スポーツから軽スポーツまで市民が気軽に親しめる多様なスポーツ振興を図ることのできる施設の環境整備の中で、競技スポーツ施設の不足や各施設の老朽化による故障・破損等が多くなっていることが課題である。							
当該年度の取組		○松阪公園プール底面等塗装改修工事 7,966,350円 経年劣化した底面の塗装を行い、利用者の事故等の防止に努めた。 ○松阪公園プールスライダー内面補修工事 1,262,100円 経年劣化したスライダー滑走面の補修を行い、利用者の事故等の防止に努めた。							
改善案・方向性		スポーツを通し豊かな生活を送るという目標に向け、身近なところでスポーツを楽しむ環境づくりや利用者の安全安心な環境保全のため施設の改修を計画的に進めていかなければならない。							

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】				番号		32	
						↑ 達成度 ↓ A B C C B A 重要度 →			
事業名		スポーツ少年団補助金							
担当課		スポーツ振興課	事業年度	平成17年度～継続中					
予算・決算		平成24年度決算	2,301 千円	平成25年度決算	2,970 千円	平成26年度予算	3,360 千円		
事業目的		スポーツを通じた子どもの健やかな成長を、地域の力で促進する各スポーツ少年団活動の活性化を図ることを目的とする。							
事業内容		この補助金は、松阪市スポーツ少年団に登録している各団が取り組む活動等に要する経費の一部を補助するもので、下記のとおり算定し支援している。 ・各登録団の活動費の中で補助対象経費の2分の1に相当する額を補助し、60,000円を1登録団の上限とし、予算の範囲内で交付するものとする。							
複数年にわたる事業	進捗度等	松阪市スポーツ少年団に登録している各団が取り組む活動等に要する経費の一部を補助している。							
	前年度の改善案方向性	補助額においては、これまでの交付基準の見直しを24年度に行い、25年度からは6万円を上限に活動経費の2分の1の補助に改め公平性を高めていく。今後は、各地域で新規結成した団体や、未加入の既存クラブなどの加入を図って行きたい。							
	取組実績	平成25年度からの補助金要項の改正案を作成した。							
検討課題		スポーツ少年団は、各団が活発に活動することによって青少年の心身の健全な育成を図ることを目的に活動しており、この補助金は、その活動に必要な経費、大会に参加する経費等に当てられ各団の運営に必要なものと考えている。しかしながら、近年における少子化や社会状況の変化により青少年の余暇の過ごし方が多種多様なる中、スポーツへの関心が低くなってきている現状にある。今後は、市ホームページや広報紙などで各地域に登録しているスポーツ少年団を紹介していき登録団数、団員数の増加に協力していきたいと考える。							
当該年度の取組		スポーツ少年団登録 56団(団員数1,180人、指導者数210人)							
改善案・方向性		スポーツの次代を担う児童数が減少し、またスポーツに取り組まない子どもが増える中、スポーツ少年団はスポーツに親しむのに一番身近な存在であり、平成33年の国体で活躍する選手の発掘・育成にその必要性は今後ますます重要になる。							

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 明るい生活を支えるスポーツライフの実現 】				番号		33											
						↑ 達成度 重要度 → <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>A</td> <td></td> <td></td> <td>★・◆</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>C</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>C</td> <td>B</td> <td>A</td> </tr> </table>				A			★・◆	B				C	
A			★・◆																
B																			
C																			
	C	B	A																
事業名	中部台運動公園施設整備事業																		
担当課	スポーツ振興課	事業年度	平成17年度～継続中																
予算・決算	平成24年度決算	9,231 千円	平成25年度決算	19,346 千円	平成26年度予算	53,700 千円													
事業目的		経年劣化による施設の改修を行い、施設の利用環境の改善を図る。																	
事業内容		・松阪市総合体育館卓球場床改修工事 ・松阪市テニスコート管理棟改修工事 ・松阪市流水プール休憩所上屋改修工事																	
複数年にわたる事業	進捗度等																		
	前年度の改善案方向性																		
	取組実績																		
検討課題		中部台運動公園の各施設は、経年劣化による改修部分が年々多くなっている。年次計画的改修を実施しているが、突発的な修繕が発生することもあり、施設管理に十分な留意が必要となる。																	
当該年度の取組		総合体育館卓球場の床改修工事、テニスコート管理棟の事務所・談話室等の改修工事及び流水プール休憩所上屋の改修工事。これらの改修は全て経年劣化によるものである。																	
改善案・方向性		中部台運動公園内施設の安全性や利便性を高め、利用者サービスの向上を図っていくことが重要であり、計画的な改修等に努めていきたい。																	

評価シート

★：今年度の総合評価

◆：昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】				番号		34	
						↑ 達成度 → 重要度			
事業名		コミュニティ・スクール推進事業				A		★・◆	
担当課		学校支援課		事業年度		平成23年度～平成26年度		B	
								C	
予算・決算		平成24年度決算		750 千円		平成25年度決算		300 千円	
								平成26年度予算	
								300 千円	
事業目的		保護者及び地域住民と学校教育において協働する学校運営協議会制度を活用し、地域における教育関係団体等と効果的に連携を図り、地域性に応じた学校運営を推進する。							
事業内容		・育成会、PTA、住民協議会などの組織と連携し、校区の特徴に応じた学校運営を学校運営協議会において推進する。 ・中学校区単位で連携するため、校区企画会議、校区連携協議会、保護者や地域住民を対象とした意見交換会を開催する。 ・学校運営協議会制度の成果と課題を検証し、公開発表会において、市内及び県内の小中学校に発信する。							
複数年にわたる事業	進捗度等	平成23年度から、文部科学省の委託を受け、第四小学校、港小学校、鎌田中学校において、保護者、地域住民、学識経験者、教職員、行政職員で組織するコミュニティ・スクール推進委員会を設置し、学校運営協議会のあり方について研究を進めてきた。							
	前年度の改善案方向性	・各校において、PTA総会、保護者懇談会を、校区で熟議を活用した意見交換会、全体研修会を開催したり、コミュニティ・スクールだよりを発行したりして、設置された学校運営協議会についての認知度を高める。 ・学校運営協議会委員及び連携校教員を評価委員とし、学校関係者評価を実施する。 ・学校支援地域本部事業との連携を強化し、地域との協働活動を推進する。 ・松阪市立第四小学校、松阪市立港小学校、松阪市立鎌田中学校において、平成25年度も引き続き、文部科学省の委託を受け、実践研究に取り組む予定である。							
	取組実績	2カ年の研究期間が終了したが、平成25年度も引き続き、文部科学省から「コミュニティ・スクールの充実・改善に関する実践研究」の研究委託を受け、実践研究を深めることができている。							
検討課題		・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）について、保護者や地域住民の認知度が更に高まるよう、様々な場面でアピールしていく必要がある。 ・学校関係者評価や学校支援ボランティアなど、学校運営協議会の活動を円滑に推進するための組織体制を整備する必要がある。 ・文部科学省の研究指定が終了後の人的及び経費における支援体制について新しい方策を考えなければならない。							
当該年度の取組		・理事会を年間8回、校区連携協議会を年間3回、企画会議を年間11回開催した。 ・意識高揚を図るため、熟議を活用した意見交換会を開催した。 ・効果的に実践を深めるため、先進地視察や文部科学省等の研修会に参加した。							
改善案・方向性		平成25年11月に平成24年度からの二カ年の実践研究を発信するため、発表会を開催し、市内小中学校教職員等を中心に約200名の参加を得ることができた。 今後は、市内において研究指定校をさらに拡大し、全国的にも実践例が少ない「小中連携型コミュニティ・スクール」の成果を市内各校に広めていく。							

評価シート

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】				番号		35		
事業名		郷土の偉人に学ぶ教育推進事業				↑ 達成度 ↓	重要度 →			
担当課		学校支援課		事業年度			平成23年度～継続中		A	★
									B	◆
									C	
予算・決算		平成24年度決算	427 千円	平成25年度決算	522 千円	平成26年度予算	2,060 千円			
事業目的		将来の松阪市を担う子どもたちが、松阪市教育ビジョンに示されている「ふるさと松阪に学ぶ教育の推進」等の実現を図る。「郷土の偉人」に学ぶ教育を実践する中で、偉人たちが目指し育んできた「夢」への営みを学び、郷土に誇りと愛着を持ち、未来を切り拓いていくことができる子どもたちの育成を図る。								
事業内容		「郷土の偉人に学ぶ」シリーズの学習冊子を作成し、小学校高学年を中心とした授業で活用する。 それぞれの冊子において「指導事例集」を作成し、教職員の研修を図るとともに、効果的な活用に繋げていく。								
複数年にわたる事業	進捗度等	平成23年度は教材冊子の作成に向けて、郷土の偉人に学ぶ教育推進協議会を立ち上げ、協議会メンバーによる検討を進めた。 平成24年度に「郷土の偉人に学ぶ①本居宣長」を作成し、各学校へ配布した。								
	前年度の改善案方向性	作成された学習冊子を今後、子どもたちの学習活動に継続的に生かしていけるよう指導事例集を作成しそれに追加・修正を加えながら、有効活用を図っていく。 また、「郷土の偉人に学ぶ①本居宣長」については、学校関係者のみならず、松阪の文化に係る資料として問合せも多く、今後、本居記念館での取扱い等、文化や観光分野との連携も可能性として考えられる。								
	取組実績	授業における活用を目指し、活用事例集を作成、配布するとともに、子ども支援研究センター主催の夏季研修会で教職員対象に活用についての研修を行った。								
検討課題		作成された冊子を活用した学習活動の取組を充実させ、継続的・発展的に学習を進めていけるよう、具体的な方策を講じていかなければならない。								
当該年度の取組		プロジェクトチームを編成し、学識者の指導助言を行いながら、平成25年度は、「松浦武四郎」の教材冊子を作成した。更に、平成26年度に「郷土の偉人」として教材冊子をつくる人物の選定や、作成したの教材冊子の活用の仕方、「郷土の偉人に学ぶ授業」の展開の仕方を協議し、授業へと繋げる構想を作っていた。								
改善案・方向性		子どもたちの学習活動に継続的に生かしていけるよう活用事例集に追加・修正を加え、指導内容の充実を図っていく。								

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】				番号		36	
						↑ 達成度 ↓ A B C C B A 重要度 → ★・◆			
事業名		鎌田中学校校舎改築事業							
担当課		教育総務課		事業年度		平成23年度～平成31年度			
予算・決算		平成24年度決算	20,302 千円		平成25年度決算	1,713 千円		平成26年度予算	1,258,540 千円
事業目的		老朽化に伴う教育環境整備及び今後の生徒増加に伴う教室不足を解消するため校舎改築を行い教育条件の整備充実を図る。							
事業内容		築54年と52年が経過し老朽化が著しく、教育環境整備並びに教育条件充実のために校舎改築を行う。							
複数年にわたる事業	進捗度等	平成23年度に耐力度調査、境界測量を行った。 平成24年度に用地取得のための建物調査を行った。 平成25年度に用地取得のための土地鑑定評価及び営業調査を行った。							
	前年度の改善案方向性	平成25年度について隣地にかかる土地鑑定、営業調査の実施。							
	取組実績	用地取得のための土地鑑定評価及び営業調査を行った。							
検討課題		鎌田中学校校舎改築事業は、平成24年度の建物調査等により、また、平成25年度に営業調査により補償額を決め、平成26年度初旬の隣地買収交渉により、学校施設用地が決定し、今後、建設に向け具体的な協議を学校関係者等と行います。							
当該年度の取組		平成25年度に用地取得のための土地鑑定評価及び営業調査を行った。							
改善案・方向性		平成26年度については、校舎改築に向けての用地取得交渉を行う。 今後、学校施設用地が決定しだい、建設に向け具体的な協議を学校関係者等と行います。							

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】				番号		37		
事業名		小野江小学校校舎増築事業				↑ 達成度	重要度 →			
							A			★・◆
							B			
							C			
担当課		教育総務課	事業年度	平成24年度～平成25年度			C	B	A	
予算・決算		平成24年度決算	8,894 千円	平成25年度決算	212,085 千円	平成26年度予算	千円			
事業目的		小野江小学校校区では、宅地化が進んでおり、校区内の人口が増加し、これに伴い児童数の増加が予測される。平成25年度以降、新入児童の学級数が2学級となり教室不足となるため平成24年度に校舎増築のための実施設計と地質調査を実施し、各学年2学級に対応できるよう平成25年度に増築工事(6教室)と教員増に対応するため既設職員室等の改造工事を実施した。 増築工事を実施することで教室不足が解消でき教育環境の整備充実が図られる。								
事業内容		平成24年度に増築のための実施設計と地質調査を行い、平成25年度に普通教室4教室、特別支援教室、パソコン教室の増築工事と既設校舎の改造工事等を実施した。 増築校舎:鉄骨造2階建て 696㎡								
複数年にわたる事業	進捗度等	平成24年度に増築のための実施設計と地質調査を行い、平成25年度に普通教室4教室、特別支援教室、パソコン教室の増築工事と既設校舎の改造工事等を実施した。								
	前年度の改善案方向性	平成25年度に校舎増築工事を行うことにより、各学年2学級となることには対応でき、当面小野江小学校の教室不足は解消されるが、今後も「住民基本台帳に基づく校区别児童・生徒年度別調べ」による児童数推移を注視していきたい。								
	取組実績	小野江小学校校舎増築工事(建築)(機械設備)(電気設備) 工期:平成25年6月21日着手～平成26年2月28日まで 小野江小学校校舎増築工事監理業務委託 業務委託期間:平成25年6月21日着手～平成26年2月28日まで								
検討課題		工事期間中の児童、教職員等の安全確保や学校施設の使用制限などについて、学校関係者、請負業者等と定期的な協議を重ね、安全確保を最優先に工事を進めていく。								
当該年度の取組		小野江小学校校舎増築工事(建築)(機械設備)(電気設備) 工期:平成25年6月21日着手～平成26年2月28日まで 小野江小学校校舎増築工事監理業務委託 業務委託期間:平成25年6月21日着手～平成26年2月28日まで 校舎増築に伴う備品、消耗品購入等 既設校舎の外階段移設に伴い、屋上フェンスを設置し、屋上を津波時の緊急避難場所とした。								
改善案・方向性		適正な施設維持管理に努める。 平成25年度に校舎増築工事を行うことにより、各学年2学級となることには対応でき、当面小野江小学校の教室不足は解消できる。今後も「住民基本台帳に基づく校区别児童・生徒年度別調べ」による児童数推移を注視していきたい。								

評 価 シ ー ト

★:今年度の総合評価

◆:昨年度の総合評価

点検・評価対象テーマ		【 輝け！松阪！新しい教育の創造 】				番号		38		
事業名		(繰越分)豊田幼稚園園舎改築事業(暮らしの安心・地域活性化等)				↑ 達成度	重要度 →			
							A			★・◆
							B			
							C			
担当課		教育総務課	事業年度	平成23年度～平成25年度			C	B	A	
予算・決算		平成24年度決算	63,831 千円	平成25年度決算	88,584 千円	平成26年度予算	千円			
事業目的		豊田幼稚園の園舎は、昭和53年12月に建築され老朽化が進んでいる上に、平成18年度に行った耐震診断の結果、耐震性能が基準を下回っていることから園児等の安全安心を守り、幼稚園教育の環境改善を図る園舎改築工事を実施した。								
事業内容		園舎改築工事について、工期を平成24年8月20日から平成25年6月28日までとし実施。 新園舎:鉄骨造平屋建て 479.36㎡ 改築期間中、園児は、隣接する豊田小学校の校庭内に建設された仮設園舎で幼稚園生活を送った。 ※この事業は、国の補正予算第1号(緊急経済対策)に伴い前倒しで実施したものです。(平成25年度へ全額繰越明許)								
複数年にわたる事業	進捗度等	平成23年度に改築工事のための実施設計と地質調査を行った。 平成24年度～25年度に園舎改築工事を実施した。								
	前年度の改善案方向性	平成25年6月にこの園舎改築工事が完成すると、市内のすべての幼稚園の園舎耐震化が完了する。								
	取組実績	豊田幼稚園園舎改築工事(建築)(機械設備)(電気設備) 工期:平成24年8月20日～平成25年6月28日 豊田幼稚園園舎改築工事監理業務委託 工期:平成24年8月28日～平成25年6月28日 豊田幼稚園仮設園舎賃貸借 賃貸借期間:平成24年9月1日～平成25年8月5日								
検討課題		園舎改築工事を進める当たっては、工事期間中の園児、教職員等の安全確保や幼稚園施設の使用制限などについて、幼稚園関係者、請負業者等と定期的な協議を重ね、安全確保を最優先に工事を進めていく。 また、仮設園舎を隣接する豊田小学校校庭に建設するため、園児、児童の幼稚園、学校生活等に不都合が生じないように幼稚園、学校、工事関係者との協議を十分に行っていく。								
当該年度の取組		豊田幼稚園園舎改築工事(建築)(機械設備)(電気設備) 工期:平成24年8月20日～平成25年6月28日 豊田幼稚園園舎改築工事監理業務委託 工期:平成24年8月28日～平成25年6月28日 豊田幼稚園仮設園舎賃貸借 賃貸借期間:平成24年9月1日～平成25年8月5日 園舎改築に伴う備品、消耗品購入等								
改善案・方向性		適正な施設維持管理に努める。 平成25年6月にこの園舎改築工事が完成し、市内のすべての幼稚園の園舎耐震化が完了。 ※今後は学校施設における吊り天井等の非構造部材の耐震化を進めていく。								

4 総評

6つの夢ナビゲーション別のそれぞれの事業の達成度は、概ね「達成できた」となり、昨年度に比べいくつかの事業については改善することができました。その一方で、「概ね達成できた」または「達成できなかった」となる事業もあり、夢ナビゲーション実現に向けて、各事業の課題を十分に検討し、改善していく必要があると考えます。

教育委員会といたしましては、委員会での議論がさらに活発となるように引き続き各種研修に参加したり、現場の声を踏まえて教育施策、事業を進めるために積極的に学校教育現場や文化施設等を訪問し、情報収集、意見交換に努めます。

Ⅲ 教育委員会の活動状況

1. 委員選任状況

(平成26年3月末現在)

職 名	氏 名	任 期
委 員 長	長島喜久雄	自 平成23年2月26日 至 平成27年2月25日
委員長職務代理者	西川 和夫	自 平成24年2月26日 至 平成28年2月25日
委 員	伊藤 和代	自 平成25年2月26日 至 平成29年2月25日
委 員	山川 隆志	自 平成26年2月26日 至 平成30年2月25日
教 育 長	東 博武	自 平成25年3月25日 至 平成29年3月24日

※教育委員（教育長を含む。）任期は4年間。

2. 会議の開催状況

定例会	12回（毎月1回）
臨時会	3回

3. 審議状況

ア 付議案件数

議 案	22件
報 告	82件

イ 審議された主な議案等

- (1) 教育委員会規則等の制定・改正に関すること。
- (2) 人事に関すること。
- (3) 教育施策に関する基本的な方針に関すること。
- (4) 市議会に提出する予算等に関すること。
- (5) 文化財に関すること。
- (6) 審議会等委員の委嘱に関すること。
- (7) 教育委員会事務局各課の事業に関すること。
- (8) 児童生徒の問題行動等に関すること。

4. 研修及び学校訪問等

松阪市においても導入を検討しているPFI手法による図書館運営を行っている府中市立中央図書館や、VRシアターを導入する場合に、教育教材としての活用を検討すべく、凸版印刷VRシアターなどを視察しました。府中市立中央図書館では、施設内のユニバーサルデザイン化はもちろんのこと、読み聞かせ室や授乳室をはじめ、視聴覚コーナー、研究個室等が整備され、幅広い年齢層、客層に対応した作りとなっている他、ICタグを全書籍に設置することで、自動貸出機や予約本の貸し出し等、顧客が自分のペースで利用できる等の利点も等、松阪市における図書館改革の可能性を垣間見ることができました。

また、VRシアターにおいて、江戸城、熊本城、マチュピチュ遺跡を再現したVR作品を体験し、細部まで作りこまれた映像に驚かされるとともに、実際にコントローラーを用いて自由に作品内を動き回ることもでき、その時々に応じた紹介ができる等、応用力の高さを感じることができました。

その他参加した研修等

- ・ 旧長谷川邸施設訪問
- ・ 平成25年度市町村教育委員会研究協議会
- ・ 三重の教育談義

Ⅳ 第三者評価

1. 第三者評価委員

名 前	所 属 等
杉田 勝雄	元三重中京大学短期大学部教授・教学部長 (元松阪市教育ビジョン構築検討委員会委員)
梶間 裕司	松阪市社会教育委員長
中村 保之	松阪市 PTA 連合会会長

2. 第三者評価の総評

【杉田勝雄委員】

(1) はじめに

組織の活動の点検・評価は「理念・ビジョン・戦略・現状認識」のマネジメントシステムと「計画・実行・評価・改善」のPDCA サイクル（マネジメントサイクル）で確認することが妥当である。そこで、「松阪市教育ビジョン」（以下教育ビジョン）をマネジメントシステムの視点で確認する。まず、方向性を示す基本理念は「夢を育み 未来を切り開く松阪の人づくり」である。実現可能なる将来像としてのビジョンは「松阪に育ったことを誇りとし、世界の人々とともに生きる子ども」「思いやりを持ち、自分らしさを発揮し、行動できる子ども」「じっくり考え、自ら表現し、学び続けようとする子ども」である。このビジョンの実現のため戦略として「ドキドキ！ワクワク！学びの芽生えを育む就学前教育の充実」「キッチリ！バッチリ！学びの基礎を育む教育の充実」「市民による、市民のための生涯学習の推進」「個性あふれる文化・芸術の進行」「明るい生活を支えるスポーツライフの実現」「輝け！松阪！新しい教育の創造」の6項目である。そこで、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下 地教行法）との整合性を保ちつつ、6つの重点項目を支えるため各課の施策がある。そして、現状分析としてPDCA サイクルに従った「教育委員会活動の点検・評価」がある。

そこで、「教育ビジョン」の実現と、地教行法の一部改正の観点からシステムがサイクルとして効果的に機能し3つの『ビジョン』が実現しているかを第三者評価として述べてみる。

(2) 報告書に基づいた評価内容

- 平成 25 年度の各事業の達成度、重要度、総合評価、事業年度、決算額一覧表は前年度の項目を「事業年度」「昨年度との比較」「事業のスクラップ・アンド・ビルド」「点検・評価項目の複数年にわたる事業の細分化した分析」等かなり改善され分かりやすくなっている。このことはPDCA サイクルが機能しているといえる。さらに分かりやすく、透明性の深化、「教育ビジョン」の実現を図るためには、3つの『ビジョン』に視点をあて、評価シートの内容をできる限り具体的な根拠、数的な進捗状況、課題の明確化、課題克服のための具体的な次年度への方策等々の記述が大切である。

○事業評価の方法については「達成度」「重要度」「総合評価」をマトリック方式で表現され非常に分かりやすい。この中で、重要度について「教育ビジョン」実現のためには、どの事業も重要であることは言うまでもない。しかしながら、重要度は報告書に記述された項目だけにとらわれていては現状を見失う危険性がある。かのコロンブスは地球が丸いことを遠くの船のマストや自己の経験に基づき正しい現状認識ができていたので歴史に残る発見ができた。また、確実な現状分析のない事業は「砂上の楼閣」に等しい。「夢ナビゲーション」で教育会を航海するためには、確実な現状分析が大切である。そのように考えたとき、全国学力・生活実態調査結果も現状理解の重要な要素である。その視点で考えると、前年度の第三者評価にも記述されていた「学力向上推進プロジェクト事業」が消えたことは残念なことである。そこで、評価シート1「特色ある学校・園づくり推進事業」についての総合的な検討が大切である。または、評価シート34～38の「輝け！松阪！新しい教育の創造」の項目において学力向上のための輝かしい新しい松阪の教育の創造が求められる。松阪にはその土壌が十分にある。

（３）まとめ

評価シートに点検・評価対象テーマごとに各課の熱意の籠った活動の点検・評価報告がなされ課題に対して真剣に取り組まれ職責を果たされていることを十分に感じる。また、学力の向上等にはいくつかの課題はあるものの教育行政としての成果は着実に向上している。今後、「教育ビジョン」の実現にさらに迫りつつ「質の高い教育・文化のふれあうまちづくり」のために、各課の有機的な連携とPDCAサイクルの精度の深化が大切である。

【梶間裕司委員】

達成度・総合評価とも38事業中33事業86.8%の事業で評価Aであり、限られた予算の中で関係者の努力が伺えます。

ただ、シートNo.7読書室いきいきプラン事業が昨年度A評価から本年度C評価になっているが記述からその原因が読み取りにくい。できれば評価Cについてはその根拠を記述していただくと第三者にとって分かりやすい。入館数等の減少かと思われますが児童生徒数の減少が影響しているかとも思われますので、比率で比較するのも一考かと思われます。

表現方法について、第三者からみて略語や専門的な用語にはできれば注釈または巻末にでも一覧表を作っていただくなど改善していただければより理解しやすいと思われます。

【中村保之委員】

日頃は学校教育に関して熱心に取り組んでいただき、保護者を代表して感謝申し上げます。

夢ナビポイント 1

人の育成、心に関しての取り組みは永遠のテーマで、日々変化が著しいと思われます。新しいことばかりを入れる必要性はありませんが、マンネリ化にならないよう、さらなる生きる力の育成を期待しています。

夢ナビポイント 2

教育相談など、心のケアは非常に難しく、対応もデリケートだと思われますが、極力相談窓口の統合により一本化が進められることを希望します。

新しい取り組みとして、学びのイノベーション事業がありますが、本年度大きく予算が計上されています。本格稼働するならば現時点でPDCAサイクルのどの位置に位置しているのでしょうか。

注目されている事業です。日々情報機器も進化していると思います。サイクルも早くすることが望まれると思います。楽しみにしています。

夢ナビポイント 3

市民との連携、情報交換、共同事業など市民、子どもたちが実感できる活動だと思います。

ぜひ今後も積極的に参加できる活動、イベントを企画運営していただくことにより、地域と共に育むことができると思います。

ただこちらにも継続事業が多いため、日々考えていただきわかっていることとは思いますが、マンネリ化や慣習的にならないようにこの夢ナビを期に見直し等も活用できたらと感じます。

夢ナビポイント 4

松阪にとって、文化歴史は大事な継続事業であると思います。こういうきっかけがなければ文化歴史に触れることも少なくなると思います。継続的に続けていただきたいと願います。

事業名で、文化財保存整備事業・修理事業や歴史的建造物公開事業・保存整備活用事業などは統合できるのではと単純に感じました。

夢ナビポイント 5

総合的にも市民が直接感じる事業のためよく理解できる事業だと感じます。

夢ナビポイント 6

この部分は夢ナビポイント 2 にリンクされている事業だと感じます。事業のバランスを考えると分配をすれば適当ではと感じました。

まとめ

新しいものと、今まで慣例的継続的に行われている事業の棲み分けがされればと思う。

詳細に討議を重ねて出来た事業であると思うが、慣例的継続的に行われている事業に関しては、マンネリ化が懸念されます。現状に満足せず、さらなる向上を図っていただくことを願います。

備品購入・学校増改築の主に投資での項目は別枠で管理しなければ対象テーマに若干ズレを感じます。

今回、詳細に渡って難しい取り組みをされていると改めて気づきがありました。そして各担当者に日々教育の面で精進され、心から敬意を評します。今後も教育と地域の連携を期待いたします。

最後に、評価するのは内容を詳細に知っていなければ評価は難しいと思われます。日々精進され、内容も見直しているとは思いますが、一評価として参考程度にして頂ければ幸いです。

V おわりに

事業評価の結果、概ねどの事業も重要度が高く、計画どおり事業を進めることが適当という評価になりました。しかし、「読書室いきいきプラン事業」においては達成度がCとなり、事業の進め方に改善が必要であるという評価になりました。

また、昨年度の様式から課題解決に向けての取組状況等が分かりやすくなるよう評価シートの様式変更を行う等、第三者から見て分かりやすい報告書の作成に努めてまいりました。しかし、評価シートの中には専門的な用語も多く、今後改善していく必要があります。

この結果を受け、改善に向けて事業のあり方、進め方等課題を明確にするとともに、各課の連携を強化し教育委員会全体で課題解決に取り組めます。